

令和6年度
全国学力・学習状況調査

調査結果のポイント

北海道（公立）における調査結果

北海道教育委員会
令和6年（2024年）7月29日

【 目 次 】

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	
■ 教科に関する調査	2
■ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査.....	3
〔 検証改善サイクルの確立、授業改善、小中連携の推進、望ましい学習 習慣の確立 〕	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校国語.....	4
■ 小学校算数.....	6
■ 中学校国語.....	8
■ 中学校数学.....	10
4. 生活習慣や学習環境等に関する質問調査.....	12
5. 子どもの自己有用感・学習意欲等の状況.....	20
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果	26

1. 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童
- 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

3 調査の内容

- 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕
次の①と②を一体的に問う調査問題
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
 - ② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査の実施日

- 教科に関する調査
令和6年(2024年)4月18日(木)
- 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
令和6年(2024年)4月の一定期間内にオンライン方式により実施

6 令和6年(2024年)4月18日(木)に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	937	932(99.5%)	34,531
中学校	572	566(99.0%)	33,614
合 計	1,509	1,498(99.3%)	68,145

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	18,529	18,466(99.7%)	947,579
中学校	9,347	9,268(99.2%)	875,952
合 計	27,876	27,734(99.5%)	1,823,531

※ 札幌市を含む。

※ 実施学校数は、4月18日に調査を実施した数。

※ 児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果の全てを表すものではなく、中央値*1、標準偏差*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着眼して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに北海道教育委員会が独自に算出した小数値で示している。

*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べたときに、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

○ 平均正答率の比較

- ・ 小学校は、全ての教科で全国との差が2.8ポイント以内（令和5年度1.5ポイント以内）。
- ・ 中学校は、全ての教科で全国との差が1.5ポイント以内（令和5年度1.7ポイント以内）。

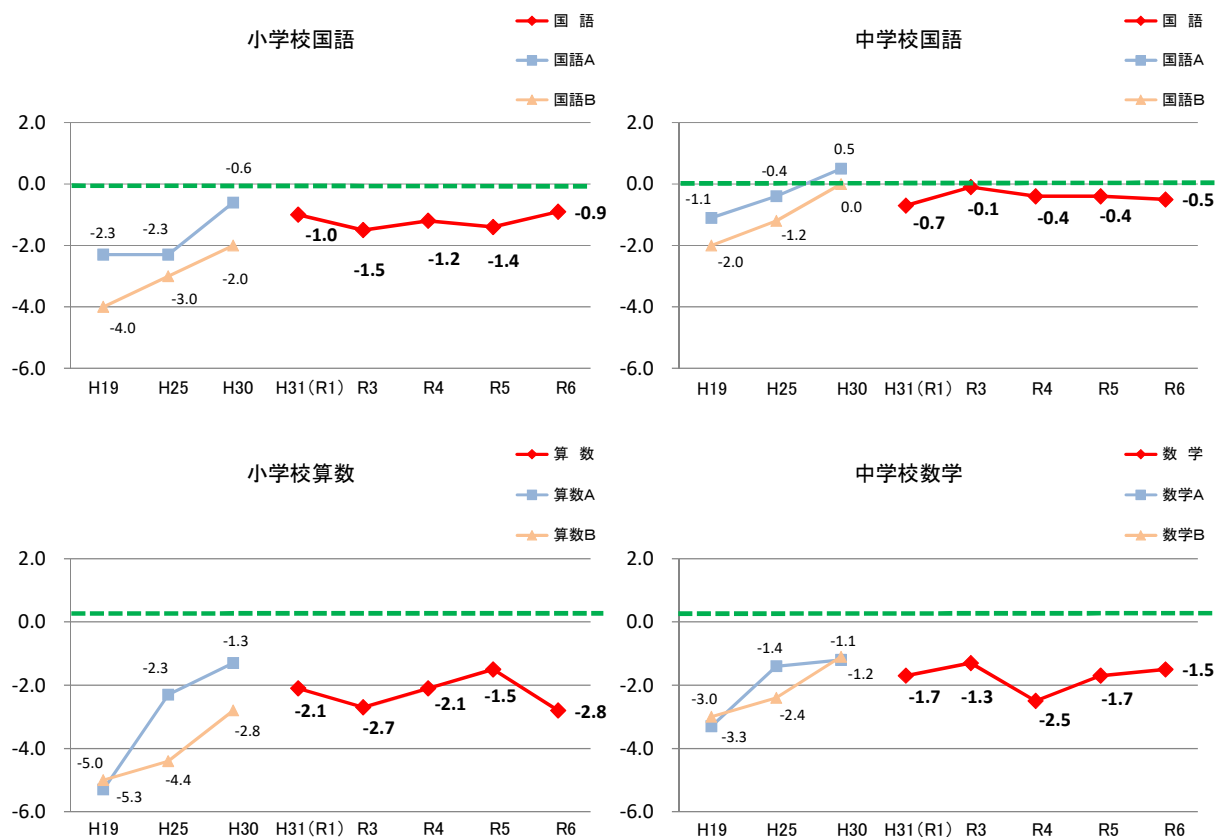
【各教科の平均正答率及び平均正答数】

			小学校		中学校	
			国語	算数	国語	数学
平均正答率 (%)	R6	道	67 [66.8]	61 [60.6]	58 [57.6]	51 [51.0]
		国	68 [67.7]	63 [63.4]	58 [58.1]	53 [52.5]
	R5	道	66 [65.8]	61 [61.0]	69 [69.4]	49 [49.3]
		国	67 [67.2]	63 [62.5]	70 [69.8]	51 [51.0]
平均正答数 (問)	R6	道	9.3/14	9.7/16	8.6/15	8.2/16
		国	9.5/14	10.1/16	8.7/15	8.4/16
	R5	道	9.2/14	9.8/16	10.4/15	7.4/15
		国	9.4/14	10.0/16	10.5/15	7.6/15

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値〔道教委が独自に算出した小数値〕

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値〔国が公表した小数値〕

【全国と北海道の平均正答率の差】



※ 数値は、「北海道(公立)の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差で算出。

※ 国語、算数・数学について、平成19年度から平成30年度まで、主として「知識」に関する問題(A)及び主として「活用」に関する問題(B)を実施。平成31年度(令和元年度)から、「知識」と「活用」を一体的に問う問題に変更して実施。

■ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

検証改善 サイクルの 確立	質 問 項 目		校 種	北海道の結果		全国比	
				R6	R5	R6	R5
	学 校	① 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していると回答した学校の割合（小13、中13）	小	57.9%	58.4%	+17.5	+19.2
			中	57.6%	54.5%	+17.1	+19.1
		② 令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したと回答した学校の割合（小74、中78）	小	57.8%	54.1%	+23.2	+21.0
			中	51.6%	52.2%	+24.5	+27.5

授業改善	質 問 項 目		校 種	北海道の結果		全国比	
				R6	R5	R6	R5
	児 童 生 徒	③ 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童生徒の割合（小30、中30）	小	28.3%	30.1%	-1.2	-0.4
			中	25.7%	29.9%	-1.5	-0.5
		④ 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていたと回答した児童生徒の割合（※令和5年度から質問文の一部を変更）（小33、中33）	小	42.3%	38.8%	+0.9	+0.2
			中	37.7%	33.6%	+1.3	-0.7
		⑤ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていたと回答した児童生徒の割合（小34、中34）	小	30.0%	29.5%	-1.9	-1.5
			中	25.5%	21.6%	-1.6	-1.5
		⑥ 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童生徒の割合（小27、中27）	小	32.5%	35.4%	+7.2	+7.2
			中	34.8%	29.7%	+3.8	+1.6
	学 校	⑦ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合（小33、中33）	小	39.4%	40.8%	+10.2	+10.5
			中	30.4%	32.0%	+4.3	+6.7
		⑧ 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した学校の割合（小60、中64）	小	32.7%	25.8%	+15.3	+9.4
			中	24.2%	19.3%	+7.3	+6.9

小中連携 の推進	質 問 項 目		校 種	北海道の結果		全国比	
				R6	R5	R6	R5
	学 校	⑨ 前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をよく行ったと回答した学校の割合（小68、中72）	小	30.5%	27.4%	+11.7	+8.9
			中	35.7%	36.2%	+10.9	+11.2

望ましい 学習習慣の 確立	質 問 項 目		校 種	北海道の結果		全国比	
				R6	R5(R4)	R6	R5(R4)
	児 童 生 徒	⑩ 学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上、勉強すると回答した児童生徒の割合（小21、中21）	小	52.4%	52.4%	-2.2	-4.7
			中	57.0%	59.0%	-7.3	-6.8
		⑪ 学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていると回答した児童生徒の割合（小4、中4）	小	21.2%	18.8%	+1.4	+0.9
			中	17.0%	14.8%	+0.4	+1.4
		⑫ 普段、1日当たり1時間以上、テレビゲームをすると回答した児童生徒の割合（小5、中5）	小	79.5%	81.4%	+5.2	+5.3
			中	72.5%	74.4%	+2.2	+3.1
		⑬ 普段、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをすると回答した児童生徒の割合（小6、中6）	小	56.2%	56.5%	+5.1	+5.9
			中	82.2%	79.3%	+3.0	+3.5
	学 校	⑭ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたと回答した学校の割合（小71、中75）	小	65.6%	62.1%	+18.4	+18.1
			中	41.2%	39.0%	+8.3	+8.1
		⑮ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしたと回答した学校の割合（小73、中77）	小	43.7%	43.4%	+16.0	+12.9
			中	29.5%	29.3%	+7.9	+7.7
		⑯ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、毎日持ち帰って家庭で利用できるようにしていると回答した学校の割合（小64、中68）	小	31.4%	21.8%	-4.8	-10.7
			中	46.0%	35.0%	+0.5	-5.9

※(校種 番号)は質問番号

※北海道の結果は最も肯定的に回答した割合。ただし、⑩、⑪、⑫、⑬、⑯は質問項目のとおり回答した割合。

※⑫と⑬は令和4年度の結果との比較。

(グラフはP12～P19に掲載)

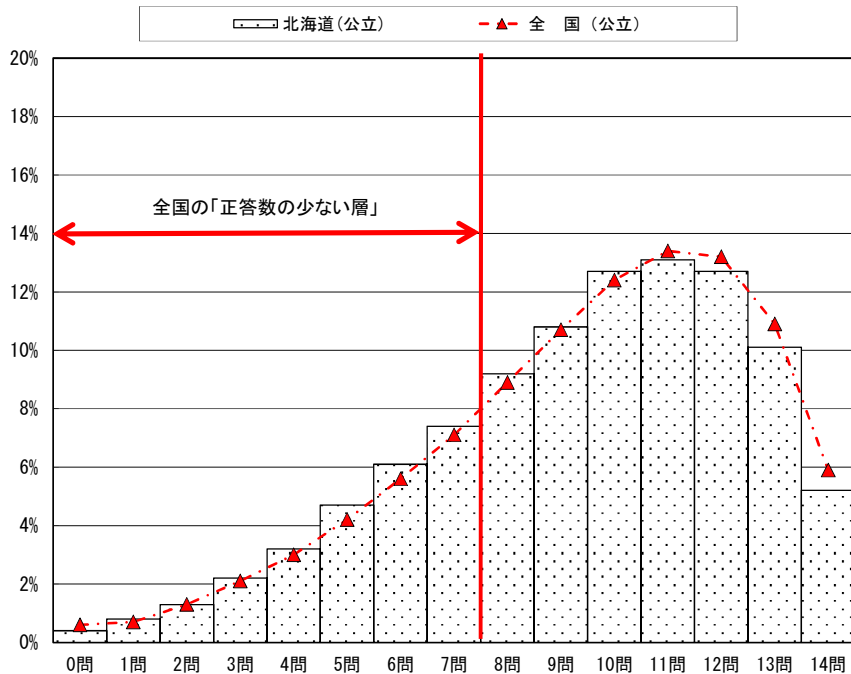
3. 教科に関する調査

■ 小学校国語

○ 概要

- 平均正答率は 67〔66.8〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.9ポイント。

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	34,531	9.3 / 14	67〔66.8〕	10.0	3.1
全国（公立）	947,364	9.5 / 14	68〔67.7〕	10.0	3.1



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
14 問（100.0%）	5.2	5.9
13 問（92.9%）	10.1	10.9
12 問（85.7%）	12.7	13.2
11 問（78.6%）	13.1	13.4
10 問（71.4%）	12.7	12.4
9 問（64.3%）	10.8	10.7
8 問（57.1%）	9.2	8.9
7 問（50.0%）	7.4	7.1
6 問（42.9%）	6.1	5.6
5 問（35.7%）	4.7	4.2
4 問（28.6%）	3.2	3.0
3 問（21.4%）	2.2	2.1
2 問（14.3%）	1.3	1.3
1 問（7.1%）	0.8	0.7
0 問（0.0%）	0.4	0.6

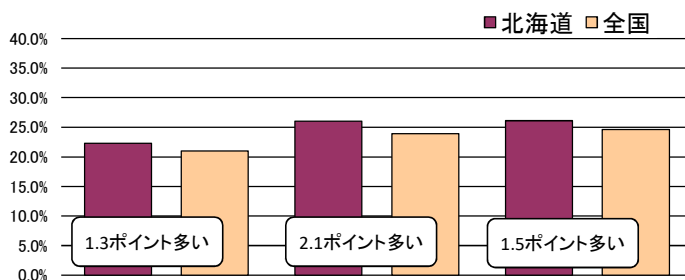
（割合は小数第2位以下を四捨五入）

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問
第2四分位	◇10.0問	10.0問
第1四分位	▽7.0問	8.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	R4		R5		R6	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	22.3%	21.0%	26.0%	23.9%	26.1%	24.6%
正答数	14問中 6問以下		14問中 7問以下		14問中 7問以下	
全国との差	1.3ポイント 多い		2.1ポイント 多い		1.5ポイント 多い	

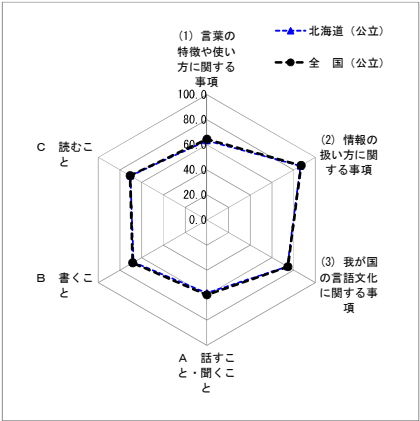
【問題別調査結果】 小学校国語

集計結果

対象学校数		北海道（公立）		全 国（公立）		対象児童数		北海道（公立）		全 国（公立）	
		932		18,466				34,531		947,364	
分類		区分				対象問題数 （問）	平均正答率（％）				
							北海道（公立）		全 国（公立）		
全体						14	67[66.8]		67.7		
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項				4	63.3		64.4		
		(2) 情報の扱い方に關する事項				1	86.3		86.9		
		(3) 我が国の言語文化に關する事項				1	74.3		74.6		
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと				3	58.3		59.8		
		B 書くこと				2	67.4		68.4		
		C 読むこと				3	70.4		70.7		
		知識・技能				6	69.0		69.8		
		思考・判断・表現				8	65.1		66.0		
		主体的に学習に取り組む態度				0					
評価の観点		選択式				10	68.9		69.9		
問題形式		短答式				2	58.9		59.7		
		記述式				2	64.2		64.6		

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号		問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
				知識及び技能			思考力、判断力、表現力等												
				(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道 （公立）	全国 （公立）	北海道 （公立）	全国 （公立）
①	一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6 ア				○		○			61.5	62.5	0.4	0.7
	二 (1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	5-6 イ						○		○				75.2	75.9	0.4	0.6
	二 (2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる			5-6 ウ				○		○				51.8	52.9	0.4	0.7
	三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5-6 ア				○		○			61.7	63.8	0.7	0.9
②	一 (1)	高山さんが文章を書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				5-6 ア				○		○			79.3	80.3	0.7	0.9
	一 (2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5-6 イ						○		○			86.3	86.9	0.7	0.9
	二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5-6 ウ				○			○		55.5	56.6	5.3	4.9
	三 ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6 エ							○			○		43.7	43.4	13.5	13.2
	三 イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）		5-6 エ							○			○		74.0	76.0	8.8	8.0
③	一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3-4 カ							○		○			60.4	62.3	1.5	2.0
	二 (1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる				5-6 イ				○		○			66.1	66.9	2.1	2.6
	二 (2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる				5-6 エ				○		○			72.4	72.5	2.3	2.9
	三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる				5-6 エ				○			○		72.9	72.6	12.6	12.6
	四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる		5-6 オ						○		○			74.3	74.6	6.4	7.6

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5％以上の無解答率。

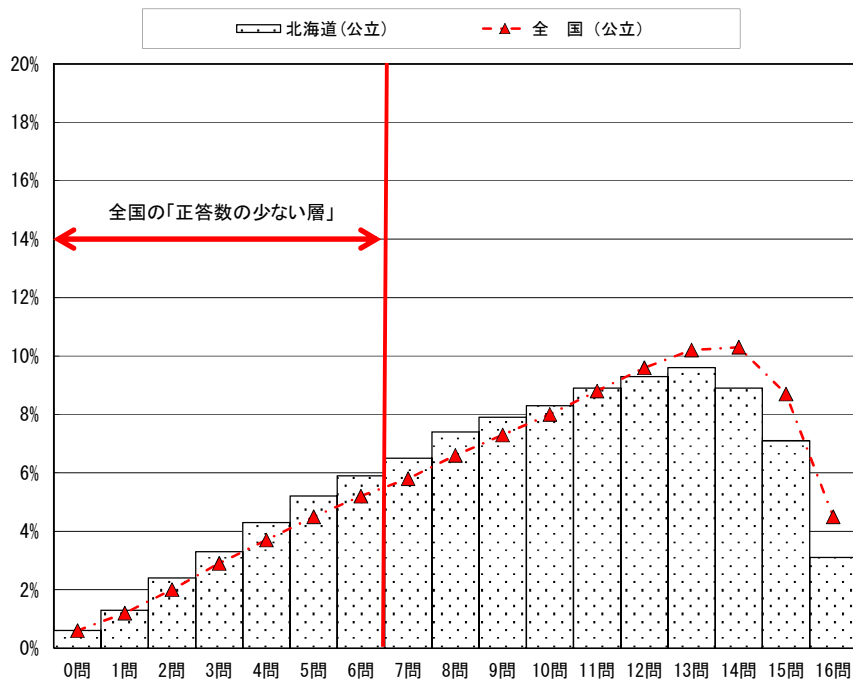
	R4	R5	R6
平均正答率が全国以上の問題数	2／14問	1／14問	2／14問
無解答率が全国以下の問題数	10／14問	9／14問	11／14問
無解答率が5％以上の問題数	6／14問	5／14問	5／14問

■ 小学校算数

○ 概要

- 平均正答率は61〔60.6〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.8ポイント。

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	34,531	9.7 / 16	61〔60.6〕	10.0	3.9
全 国（公立）	947,579	10.1 / 16	63〔63.4〕	11.0	3.9



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

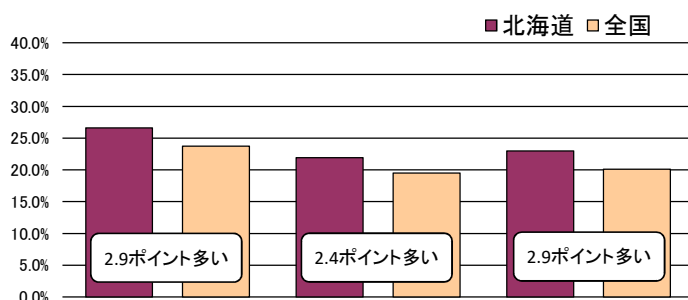
正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全 国
16 問（100.0%）	3.1	4.5
15 問（93.8%）	7.1	8.7
14 問（87.5%）	8.9	10.3
13 問（81.3%）	9.6	10.2
12 問（75.0%）	9.3	9.6
11 問（68.8%）	8.9	8.8
10 問（62.5%）	8.3	8.0
9 問（56.3%）	7.9	7.3
8 問（50.0%）	7.4	6.6
7 問（43.8%）	6.5	5.8
6 問（37.5%）	5.9	5.2
5 問（31.3%）	5.2	4.5
4 問（25.0%）	4.3	3.7
3 問（18.8%）	3.3	2.9
2 問（12.5%）	2.4	2.0
1 問（6.3%）	1.3	1.2
0 問（0.0%）	0.6	0.6

（割合は小数第2位以下を四捨五入）

四分位		
	北海道	全 国
第3四分位	△13.0問	13.0問
第2四分位	◇10.0問	11.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

※ 児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



	R4		R5		R6	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	26.6%	23.7%	21.9%	19.5%	23.0%	20.1%
正答数	16問中 7問以下		16問中 6問以下		16問中 6問以下	
全国との差	2.9ポイント 多い		2.4ポイント 多い		2.9ポイント 多い	

【問題別調査結果】 小学校算数

集計集計結果

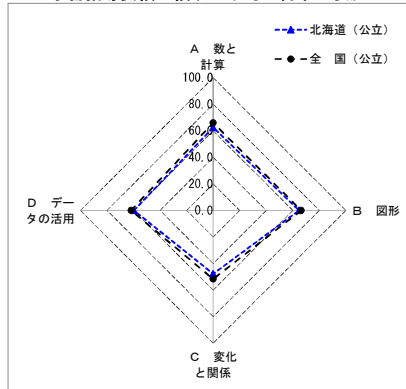
※計画表

対象学校数	北海道（公立）	全 国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全 国（公立）
	932	18,466		34,531	947,579

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北海道（公立）	全 国（公立）
全体		16	61 [60.6]	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	62.5	66.0
	B 図形	4	64.7	66.3
	C 測定	0		
	C 変化と関係	3	47.8	51.7
	D データの活用	4	59.7	61.8
評価の観点	知識・技能	9	69.6	72.8
	思考・判断・表現	7	49.0	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	72.9	75.3
	短答式	7	58.8	62.0
	記述式	4	48.3	51.0

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
①	(1) 問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2 (2) 7 (2)					○			○			57.7	62.1	0.1	0.2
	(2) はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3 (3) 7 (7)					○			○			87.9	88.5	0.2	0.3
②	(1) $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3 (3) 4 (7)					○				○		53.8	56.9	3.6	3.4
	(2) 除数が1／10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5 (3) 7 (7)					○			○			65.5	69.1	1.2	1.3
③	(1) 作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4 (2) 7 (7) 7 (7)					○			○			84.2	85.5	0.6	0.6
	(2) 円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5 (1) 7 (2)					○			○			69.2	71.3	0.7	0.8
	(3) 直径2.2cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さや立方体の辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3 (1) 7 (2) 5 (4) 7 (4) 4 (7)					○			○			34.3	36.5	10.3	9.8
	(4) 五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5 (2) 7 (7) 4 (7)					○				○		71.3	72.0	1.8	1.8
④	(1) $540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5 (3) 7 (4)					○			○			63.3	70.1	3.7	3.1
	(2) 3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	5 (1) 7 (7) 5 (2) 4 (7)					○			○			69.2	70.0	3.7	3.3
	(3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5 (2) 7 (7) 4 (7)					○				○		26.1	31.0	2.4	2.4
	(4) 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	5 (2) 7 (7)					○			○			48.1	54.1	5.1	4.6
⑤	(1) 円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	5 (1) 7 (7)					○			○			78.6	80.8	1.8	1.8
	(2) 示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	3 (1) 7 (7)					○			○			71.7	73.3	4.0	3.9
	(3) 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	3 (1) 4 (7) 4 (1) 7 (4)					○			○			42.0	44.0	13.5	12.6
	(4) 示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2 (1) 7 (7)					○			○			46.5	49.3	4.1	4.0

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5％以上の無解答率。

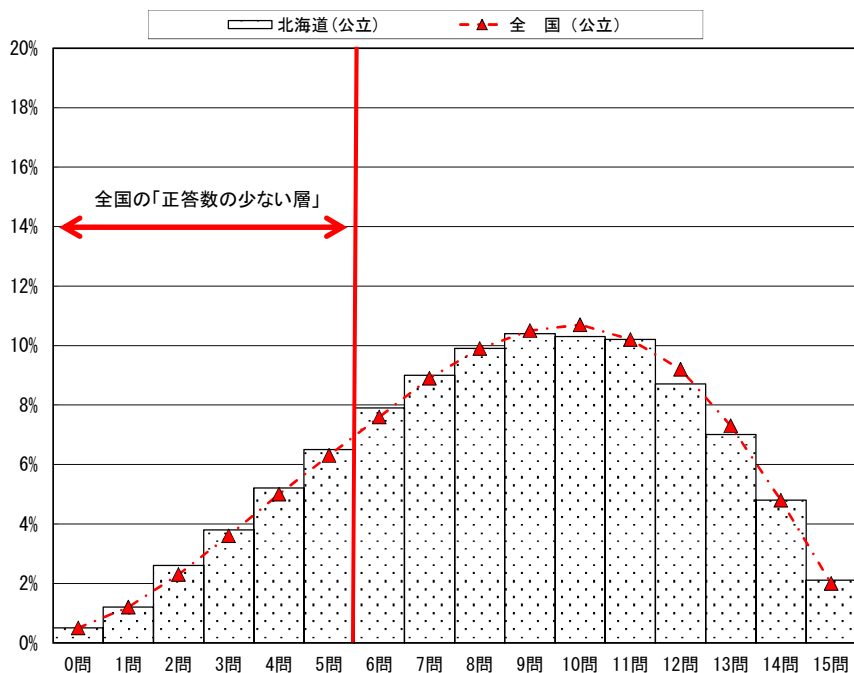
	R4	R5	R6
平均正答率が全国以上の問題数	3／16問	2／16問	0／16問
無解答率が全国以下の問題数	0／16問	2／16問	8／16問
無解答率が5％以上の問題数	6／16問	2／16問	3／16問

■ 中学校国語

○ 概要

- 平均正答率は58〔57.6〕%
 - 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.5ポイント。
- 〔参考〕今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
令和3年度小学校国語の全国の平均正答率との差は、-1.5ポイント。

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	33,614	8.6 / 15	58〔57.6〕	9.0	3.4
全 国（公立）	875,574	8.7 / 15	58〔58.1〕	9.0	3.4



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

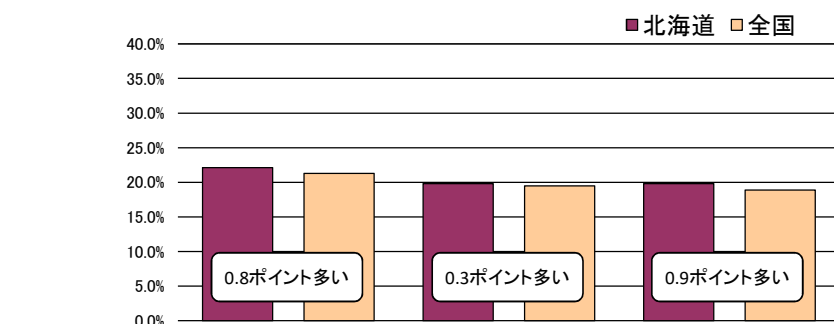
正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全 国
15 問（100.0%）	2.1	2.0
14 問（93.3%）	4.8	4.8
13 問（86.7%）	7.0	7.3
12 問（80.0%）	8.7	9.2
11 問（73.3%）	10.2	10.2
10 問（66.7%）	10.3	10.7
9 問（60.0%）	10.4	10.5
8 問（53.3%）	9.9	9.9
7 問（46.7%）	9.0	8.9
6 問（40.0%）	7.9	7.6
5 問（33.3%）	6.5	6.3
4 問（26.7%）	5.2	5.0
3 問（20.0%）	3.8	3.6
2 問（13.3%）	2.6	2.3
1 問（6.7%）	1.2	1.2
0 問（0.0%）	0.5	0.5

（割合は小数第2位以下を四捨五入）

四分位		
	北海道	全 国
第3四分位	△11.0問	11.0問
第2四分位	◇ 9.0問	9.0問
第1四分位	▽ 6.0問	6.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
△ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	R4		R5		R6	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	22.1%	21.3%	19.8%	19.5%	19.8%	18.9%
正答数	14問中 7問以下		15問中 7問以下		15問中 5問以下	
全国との差	0.8ポイント 多い		0.3ポイント 多い		0.9ポイント 多い	

〔参考〕今年度対象となった生徒の
小学校6学年時の結果



R3（小学校国語）	
全道	全国
22.2%	20.9%
14問中 6問以下	
1.3ポイント 多い	

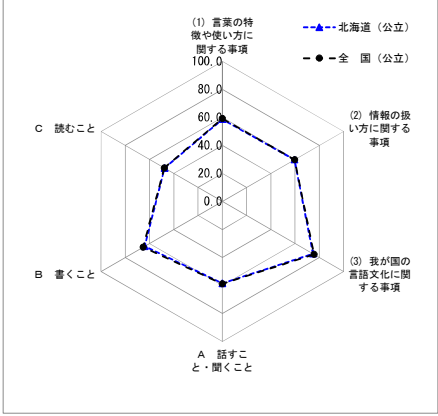
【問題別調査結果】 中学校国語

集計結果

対象学校数		北海道（公立）		全 国（公立）		対象生徒数		北海道（公立）		全 国（公立）	
		566		9,268				33,614		875,574	
分類			区分			対象問題数 （問）		平均正答率（％）			
								北海道（公立）		全 国（公立）	
			全体			15		58[57.6]		58.1	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項				3		58.6		59.2	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項				2		59.5		59.6	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項				1		74.8		75.6	
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと				3		58.5		58.8	
		B 書くこと				2		64.0		65.3	
		C 読むこと				4		47.6		47.9	
						6		61.6		62.0	
評価の観点	思考・判断・表現				9		54.9		55.4		
	主体的に学習に取り組む態度				0						
	問題形式	選択式				9		60.8		61.0	
短答式				3		61.2		61.8			
記述式				3		44.1		45.5			

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
①	一 話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1エ			○			○			63.6	63.2	0.4	0.4
	二 話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる				2ウ			○				○		68.9	68.5	3.4	3.5
	三 話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1ア						○			○			43.8	44.0	0.4	0.5
	四 話合いの話題や発言を踏まえ、「これからのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1オ			○				○		42.9	44.7	10.7	9.9
②	一 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる					2ウ		○			○			36.9	36.3	0.5	0.5
	二 本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア					○			○			75.2	75.2	0.5	0.6
	三 本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる					2ア		○			○			64.8	64.5	0.6	0.6
	四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる					1ウ		○				○		42.4	42.6	9.5	8.4
③	一 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				1ア			○			○			81.0	81.4	0.6	0.7
	二 物語の下書きについて、文中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる		2オ					○			○			52.2	53.8	1.0	1.0
	三 漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる		2ウ					○				○		68.4	68.8	11.5	10.2
	四 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えながら描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる					2ウ		○				○		46.9	49.3	18.2	15.0
④	一 短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1オ						○			○			55.2	54.9	2.4	1.8
	二 短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる					1イ		○				○		46.5	48.3	4.4	3.4
	三 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる			1エ(4)				○			○			74.8	75.6	3.1	2.3

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

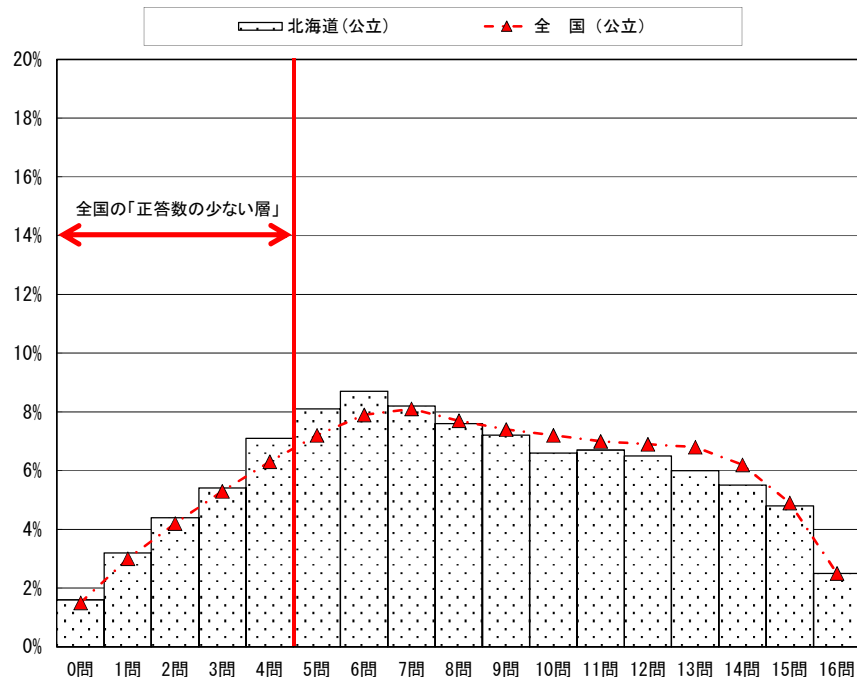
	R4	R5	R6
平均正答率が全国以上の問題数	4／14問	7／15問	6／15問
無解答率が全国以下の問題数	5／14問	9／15問	8／15問
無解答率が5%以上の問題数	4／14問	5／15問	4／15問

■ 中学校数学

○ 概要

- 平均正答率は51〔51.0〕%
 - 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.5ポイント。
- 〔参考〕今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
令和3年度小学校算数の全国の平均正答率との差は、-2.7ポイント。

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	33,598	8.2 / 16	51〔51.0〕	8.0	4.1
全 国（公立）	875,952	8.4 / 16	53〔52.5〕	8.0	4.1



※ 全国の「正答数の少ない層」 ……全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全 国
16 問（100.0%）	2.5	2.5
15 問（93.8%）	4.8	4.9
14 問（87.5%）	5.5	6.2
13 問（81.3%）	6.0	6.8
12 問（75.0%）	6.5	6.9
11 問（68.8%）	6.7	7.0
10 問（62.5%）	6.6	7.2
9 問（56.3%）	7.2	7.4
8 問（50.0%）	7.6	7.7
7 問（43.8%）	8.2	8.1
6 問（37.5%）	8.7	7.9
5 問（31.3%）	8.1	7.2
4 問（25.0%）	7.1	6.3
3 問（18.8%）	5.4	5.3
2 問（12.5%）	4.4	4.2
1 問（6.3%）	3.2	3.0
0 問（0.0%）	1.6	1.5

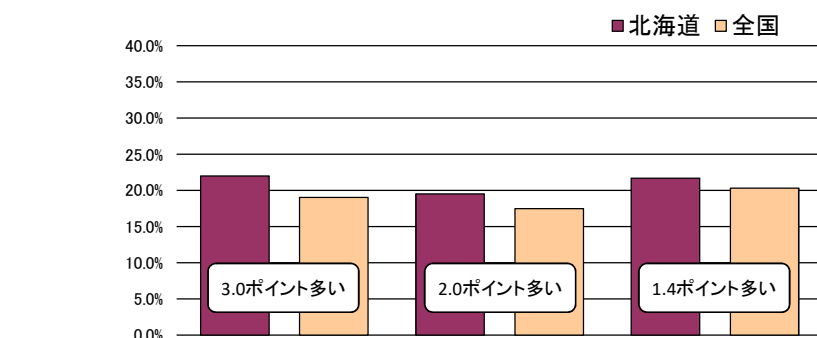
（割合は小数第2位以下を四捨五入）

四分位		
	北海道	全 国
第3四分位	△12.0問	12.0問
第2四分位	◇ 8.0問	8.0問
第1四分位	▽ 5.0問	5.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

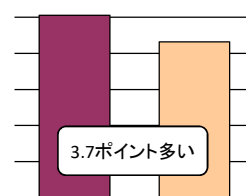
■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	R4		R5		R6	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	22.0%	19.0%	19.5%	17.5%	21.7%	20.3%
正答数	14問中 3問以下		15問中 3問以下		16問中 4問以下	
全国との差	3.0ポイント 多い		2.0ポイント 多い		1.4ポイント 多い	

〔参考〕今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果



R3（小学校算数）	
全道	全国
25.3%	21.6%
16問中 8問以下	
3.7ポイント 多い	

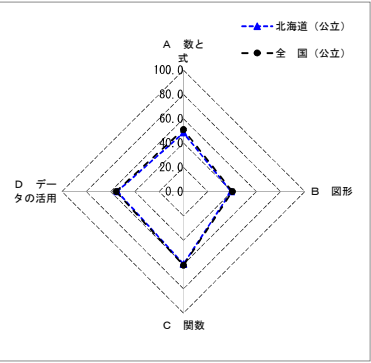
【問題別調査結果】 中学校数学

集計集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全 国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全 国（公立）
	566	9,265		33,598	875,952
分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
			北海道（公立）	全 国（公立）	
全体		16	51[51.0]	52.5	
学習指導要領の領域	A 数と式	5	48.4	51.1	
	B 図形	3	39.3	40.3	
	C 関数	4	59.7	60.7	
	D データの活用	4	54.5	55.5	
評価の観点	知識・技能	11	61.6	63.1	
	思考・判断・表現	5	27.8	29.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	57.1	58.5	
	短答式	6	65.4	67.0	
	記述式	5	27.8	29.3	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
①	n を整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	$2(1)$ $ア(4)$				○				○		31.4	34.8	17.2	14.3
②	等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	$2(1)$ $ア(2)$				○				○		47.1	52.5	11.8	9.7
③	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		$1(1)$ $ア(4)$			○			○			67.0	68.3	0.3	0.3
④	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、b の値を変えずに、a の値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			$2(1)$ $ア(7)$		○			○			64.0	65.3	0.6	0.7
⑤	2 枚の 10 円硬貨を同時に投げるとき、2 枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる				$2(2)$ $ア(4)$	○				○		74.7	73.1	4.6	4.2
⑥	(1) 正三角形の各頂点に○を、各辺に口をかけた図において、○に 3、－5 を入れるとき、その和である口に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	$1(1)$ $ア(4)$				○				○		89.4	90.2	2.9	2.5
	(2) 正三角形の各頂点に○を、各辺に口をかけた図において、口に入る整数の和が○に入れた整数の和の 2 倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	$2(1)$ $イ(4)$				○				○		34.5	35.9	26.9	23.5
	(3) 正四面体の各頂点に○を、各辺に口をかけた図において、○に入れた整数の和と口に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	$2(1)$ $イ(4)$				○				○		39.5	41.8	32.8	29.6
⑦	(1) 障害物からの距離が 10 cm より小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10 cm の位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる				$4(6)$ $ア(7)$	○				○		73.8	74.3	6.9	5.8
	(2) 車型ロボットについて「遠さが段階 1 から段階 5 まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5 つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				$2(1)$ $イ(7)$	○				○		24.4	25.9	33.7	29.4
	(3) 車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる				$2(1)$ $ア(7)$	○				○		45.1	48.5	0.9	0.9
⑧	(1) ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフと y 軸との交点 P の y 座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				$2(1)$ $ア(7)$	○				○		82.6	83.4	0.8	0.8
	(2) 18 L の灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストープの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				$2(1)$ $イ(4)$	○				○		16.2	17.1	20.7	16.4
	(3) 結衣さんがかけたグラフから、18 L の灯油を使い切るような「強」と「弱」のストープの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる				$2(1)$ $ア(7)$	○				○		75.8	76.9	4.6	3.8
⑨	(1) 点 C を線分 AB 上にとり、線分 AB について同じ側に正三角形 P A C と Q C B をつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる				$2(2)$ $ア(4)$	○				○		24.5	25.8	37.6	33.6
	(2) 点 C を線分 AB 上にとり、線分 AB について同じ側に正三角形 P A C と Q C B をつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる				$2(2)$ $ア(4)$	○				○		26.6	26.7	4.7	4.5

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は 5 % 以上の無解答率。

	R4	R5	R6
平均正答率が全国以上の問題数	2／14問	2／15問	1／16問
無解答率が全国以下の問題数	3／14問	4／15問	4／16問
無解答率が5%以上の問題数	9／14問	9／15問	8／16問

4. 生活習慣や学習環境等に関する質問調査（P 3 の項目を掲載）

■検証改善サイクルの確立

【学校】

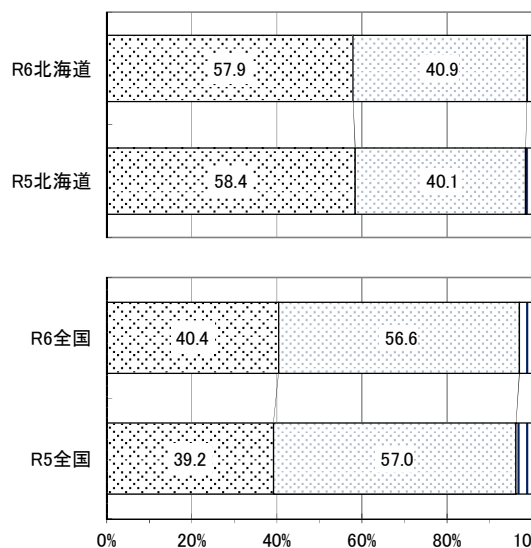
- ①「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

（学校 質問番号 小13、中13）

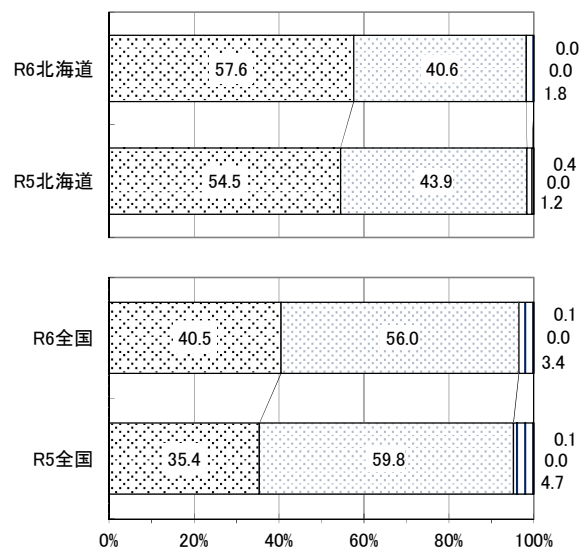
「1. よくしている」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で0.5ポイント低く、中学校で3.1ポイント高い。全国と比べて小学校で17.5ポイント高く、中学校で17.1ポイント高い。

□1. よくしている □2. どちらかといえばしている □3. あまりしていない □4. 全くしていない □その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



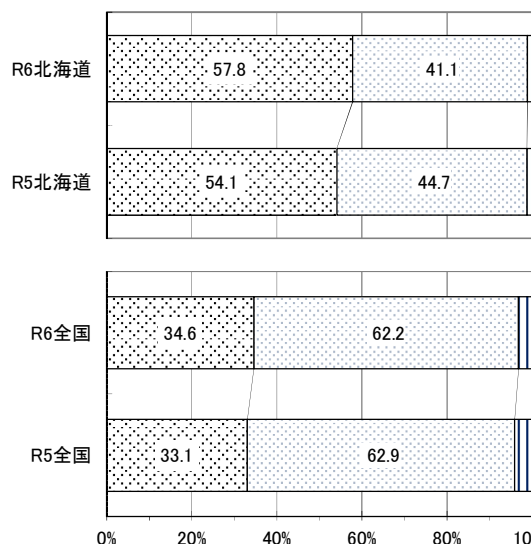
- ②「令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」

（学校 質問番号 小74、中78）

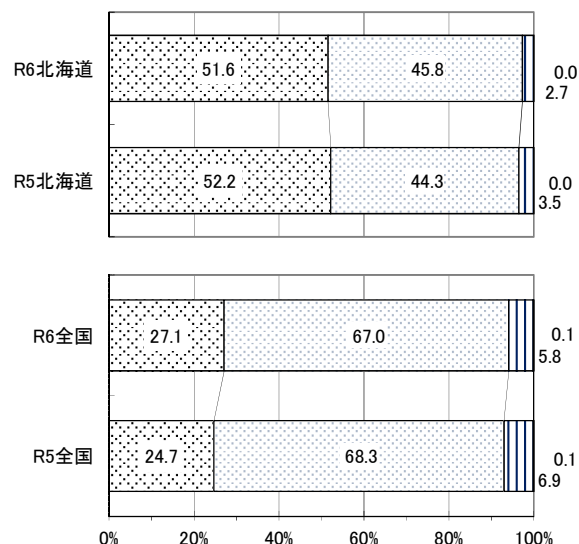
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で3.7ポイント高く、中学校で0.6ポイント低い。全国と比べて小学校で23.2ポイント高く、中学校で24.5ポイント高い。

□1. よく行った □2. 行った □3. ほとんど行かなかった □その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



■授業改善

【児童生徒】

③「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

(児童生徒 質問番号 小30、中30)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で1.8ポイント低く、中学校で4.2ポイント低い。全国と比べて小学校で1.2ポイント低く、中学校で1.5ポイント低い。

□1. 当てはまる

□2. どちらかといえば、当てはまる

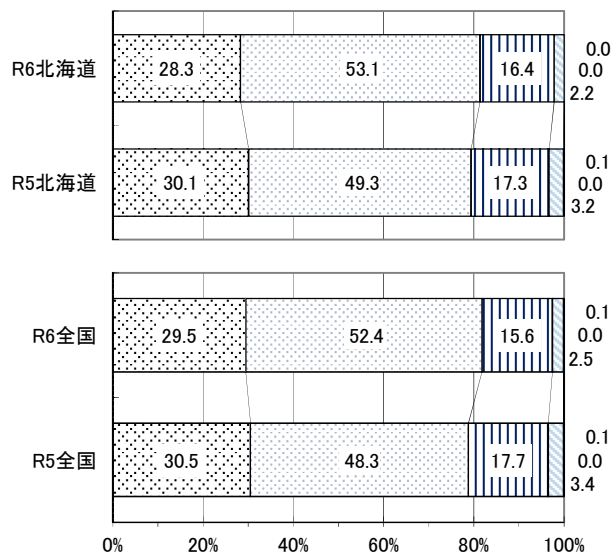
□3. どちらかといえば、当てはまらない

□4. 当てはまらない

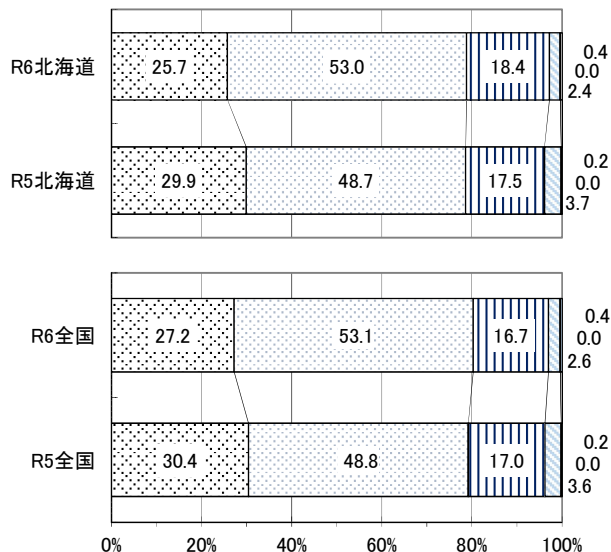
■その他

□無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



④「学級の友達[中：生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり[R5：広げたり]することができていますか」

(児童生徒 質問番号 小33、中33)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で3.5ポイント高く、中学校で4.1ポイント高い。全国と比べて小学校で0.9ポイント高く、中学校で1.3ポイント高い。

□1. 当てはまる

□2. どちらかといえば、当てはまる

□3. どちらかといえば、当てはまらない

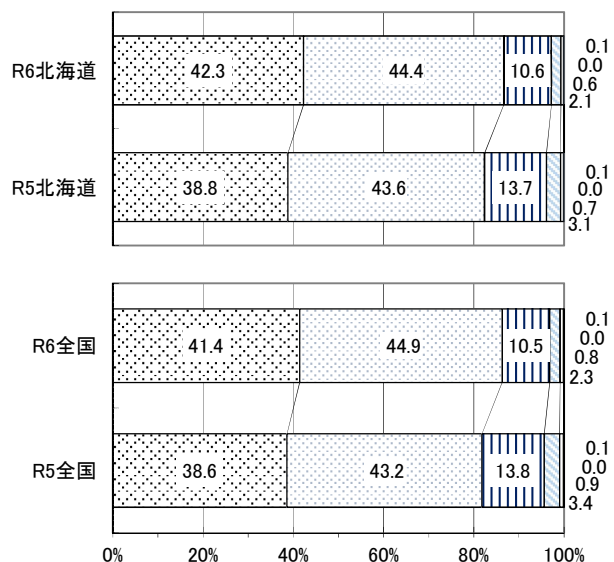
□4. 当てはまらない

□5. 学級の友達[中：生徒]との間で話し合う活動を行っていない

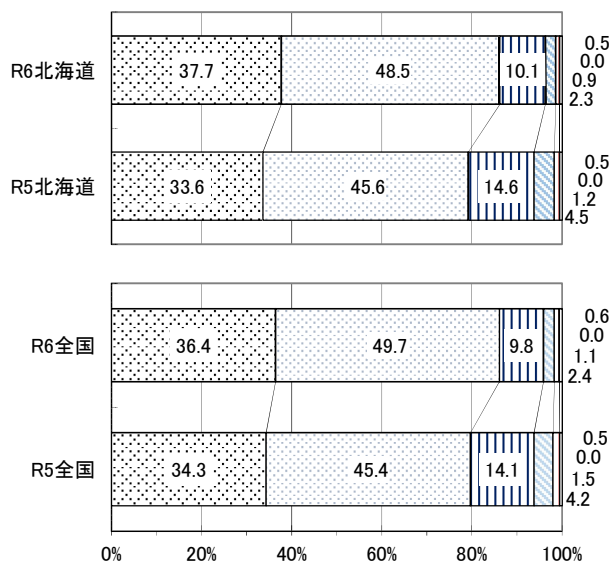
■その他

□無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



■授業改善

【児童生徒】

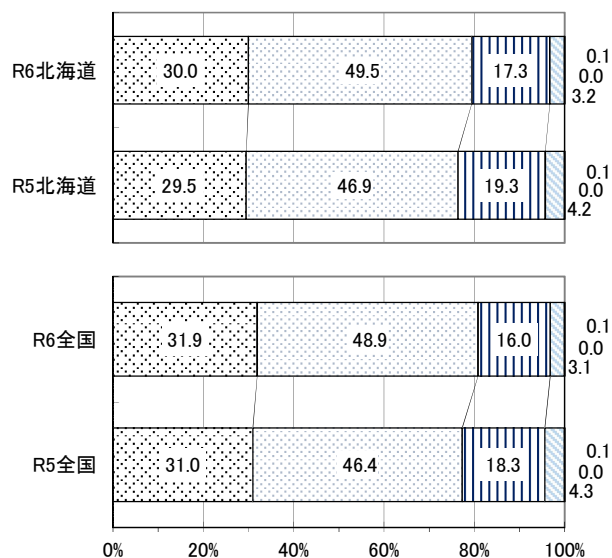
⑤「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」

(児童生徒 質問番号 小34、中34)

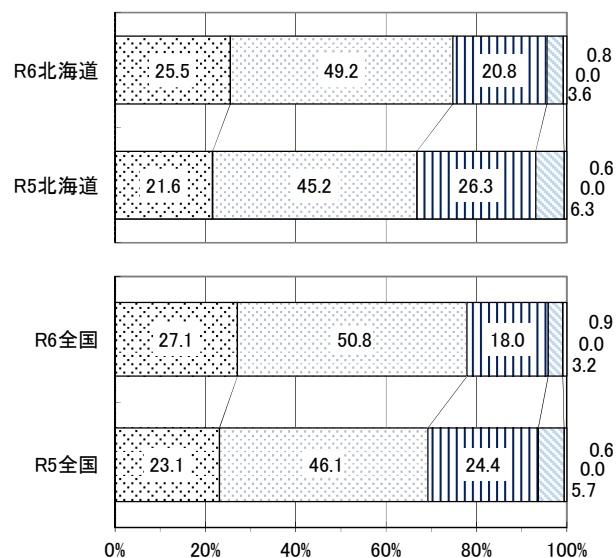
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で3.9ポイント高い。全国と比べて小学校で1.9ポイント低く、中学校で1.6ポイント低い。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



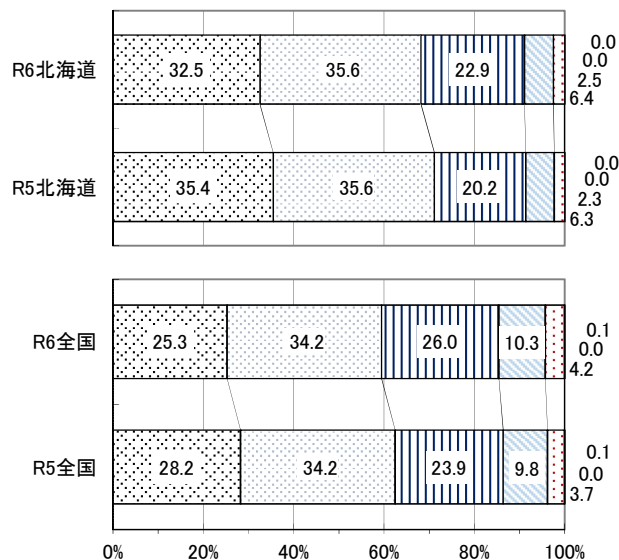
⑥「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

(児童生徒 質問番号 小27、中27)

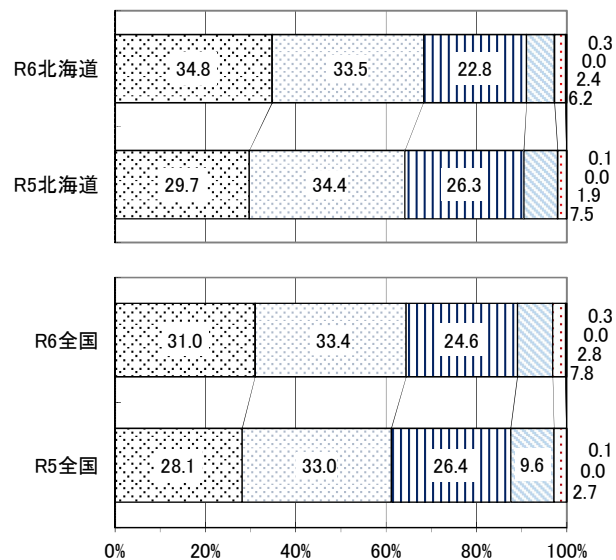
「1. ほぼ毎日」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で2.9ポイント低く、中学校で5.1ポイント高い。全国と比べて小学校で7.2ポイント高く、中学校で3.8ポイント高い。

□1. ほぼ毎日 □2. 週3回以上 □3. 週1回以上 □4. 月1回以上 □5. 月1回未満 □その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



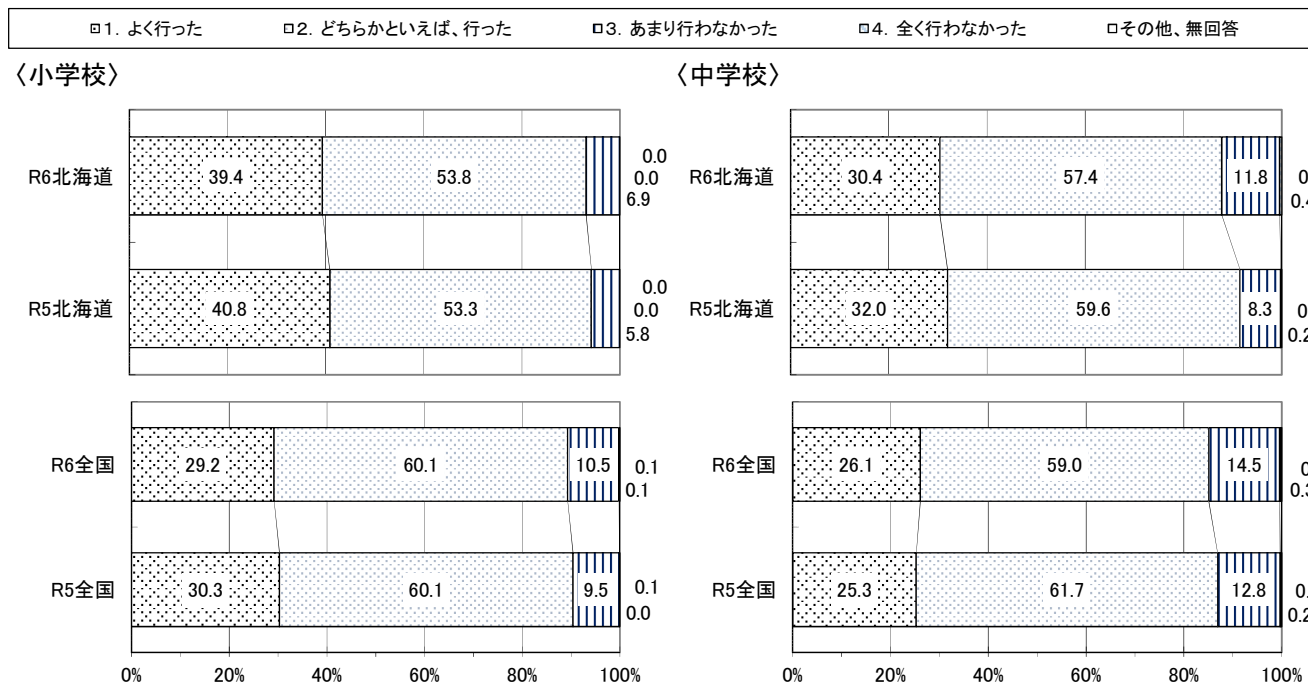
■授業改善

【学校】

⑦「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

(学校 質問番号 小33、中33)

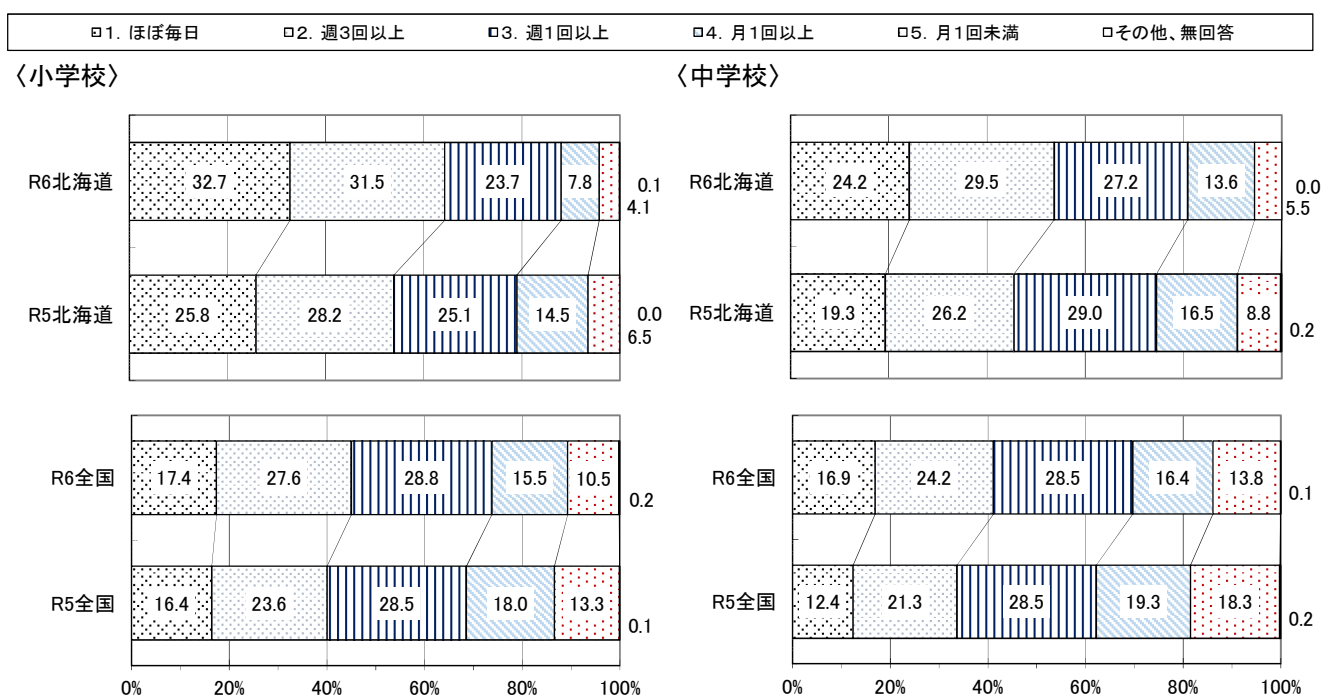
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で1.4ポイント低く、中学校で1.6ポイント低い。全国と比べて小学校で10.2ポイント高く、中学校で4.3ポイント高い。



⑧「調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか」

(学校 質問番号 小60、中64)

「1. ほぼ毎日」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で6.9ポイント高く、中学校で4.9ポイント高い。全国と比べて小学校で15.3ポイント高く、中学校で7.3ポイント高い。



■小中連携の推進

【学校】

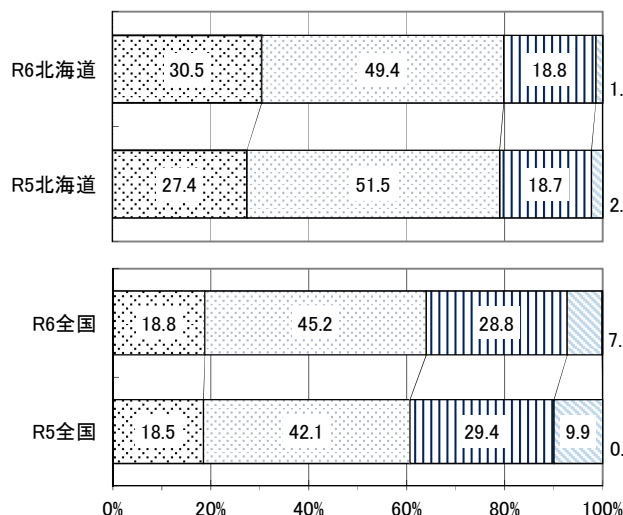
⑨「前年度までに、近隣等の中学校〔中：小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」

（学校 質問番号 小68、中72）

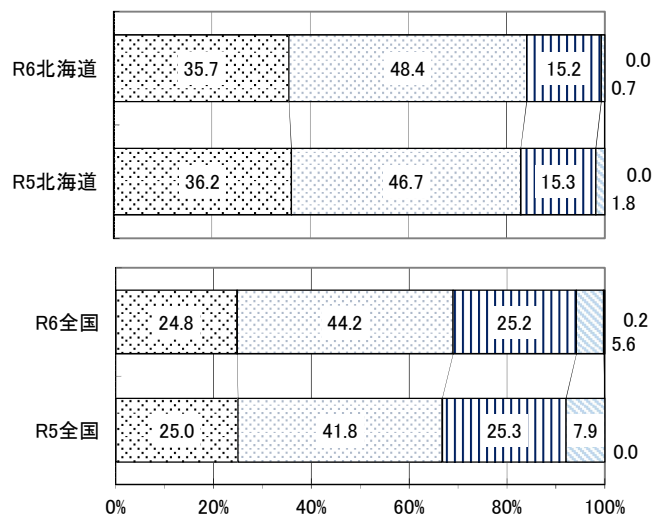
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で3.1ポイント高く、中学校で0.5ポイント低い。全国と比べて小学校で11.7ポイント高く、中学校で10.9ポイント高い。

□1. よく行った □2. どちらかといえば、行った □3. あまり行わなかった □4. 全く行わなかった □その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



■望ましい学習習慣の確立

【児童生徒】

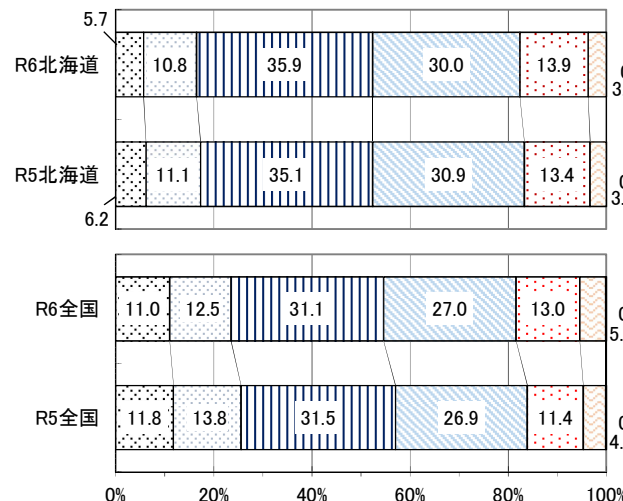
⑩「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

（児童生徒 質問番号 小21、中21）

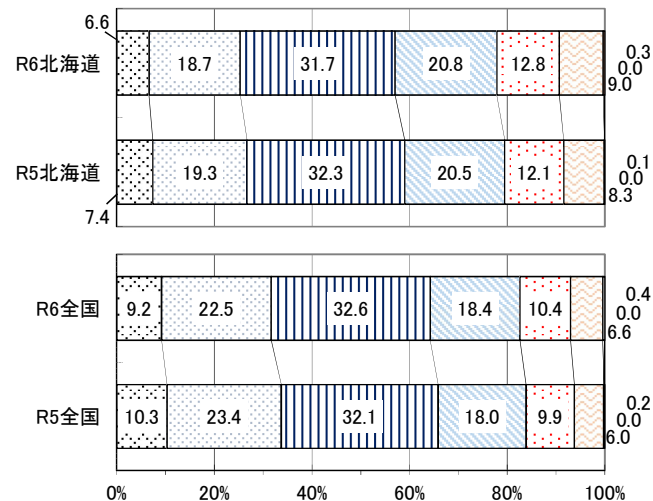
「1. 3時間以上」、「2. 2時間以上、3時間より少ない」又は「3. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で同じ、中学校で2.0ポイント低い。全国と比べて小学校で2.2ポイント低く、中学校で7.3ポイント低い。

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない □4. 30分以上、1時間より少ない
□5. 30分より少ない □6. 全くしない □その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



■望ましい学習習慣の確立

【児童生徒】

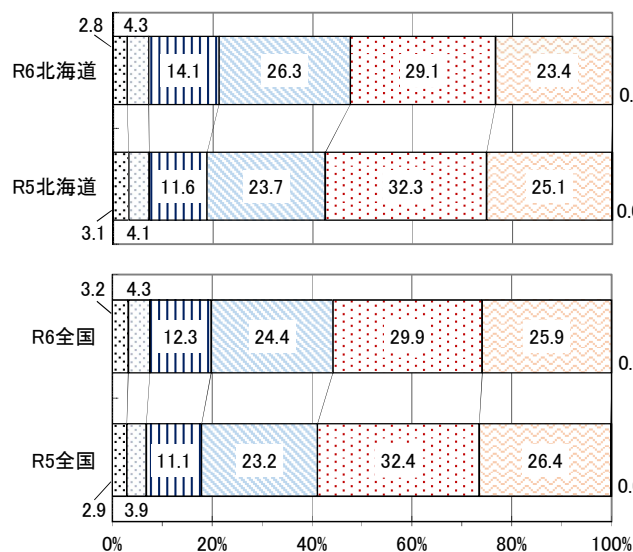
⑪「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

（児童生徒 質問番号 小4、中4）

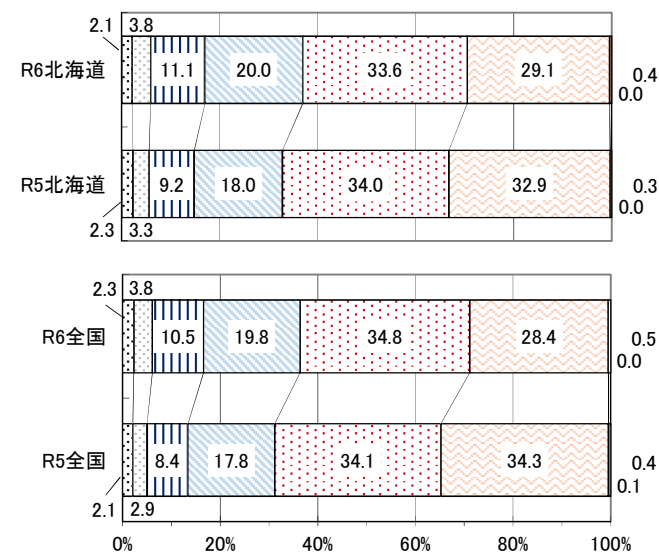
「1. 3時間以上」、「2. 2時間以上、3時間より少ない」又は「3. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で2.4ポイント高く、中学校で2.2ポイント高い。全国と比べて小学校で1.4ポイント高く、中学校で0.4ポイント高い。

□1. 3時間以上	□2. 2時間以上、3時間より少ない	□3. 1時間以上、2時間より少ない	□4. 30分以上、1時間より少ない
□5. 30分より少ない	□6. 全く使っていない	■その他	□無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



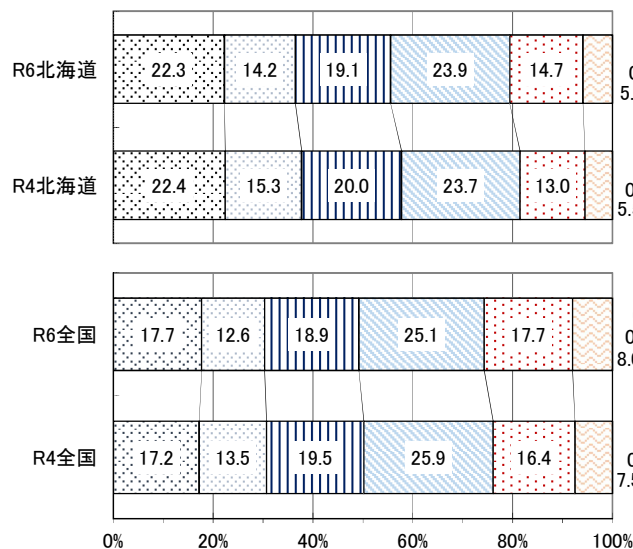
⑫「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」

（児童生徒 質問番号 小5、中5）

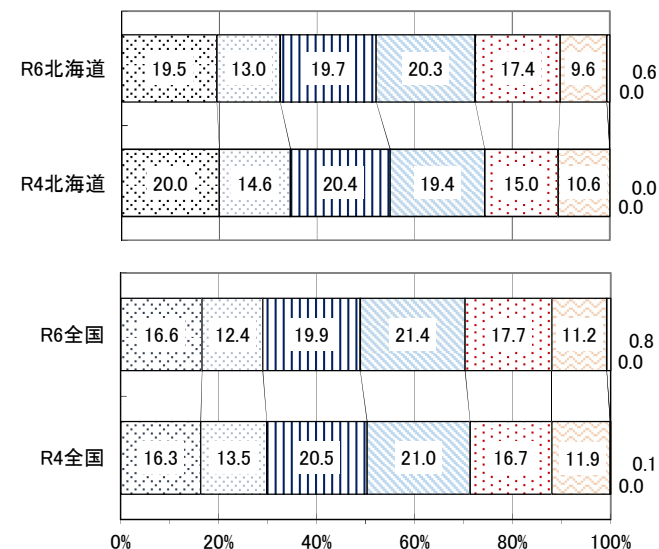
「1. 4時間以上」、「2. 3時間以上、4時間より少ない」、「3. 2時間以上、3時間より少ない」又は「4. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で1.9ポイント低く、中学校で1.9ポイント低い。全国と比べて小学校で5.2ポイント高く、中学校で2.2ポイント高い。

□1. 4時間以上	□2. 3時間以上、4時間より少ない	□3. 2時間以上、3時間より少ない	□4. 1時間以上、2時間より少ない
□5. 1時間より少ない	□6. 全くしない	□その他	□無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



■望ましい学習習慣の確立

【児童生徒】

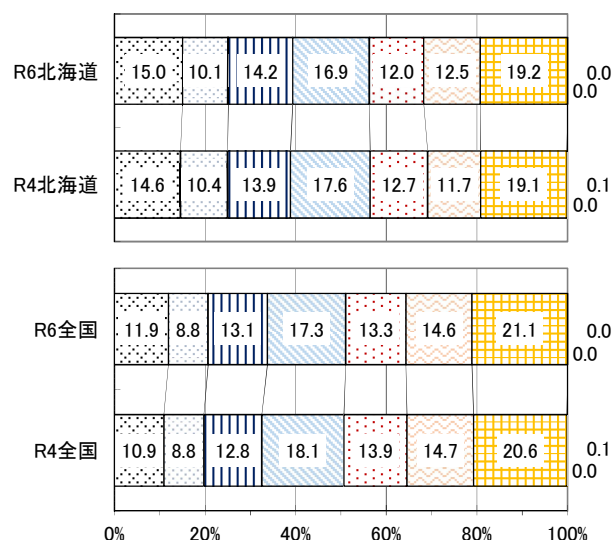
⑬「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」

(児童生徒 質問番号 小6、中6)

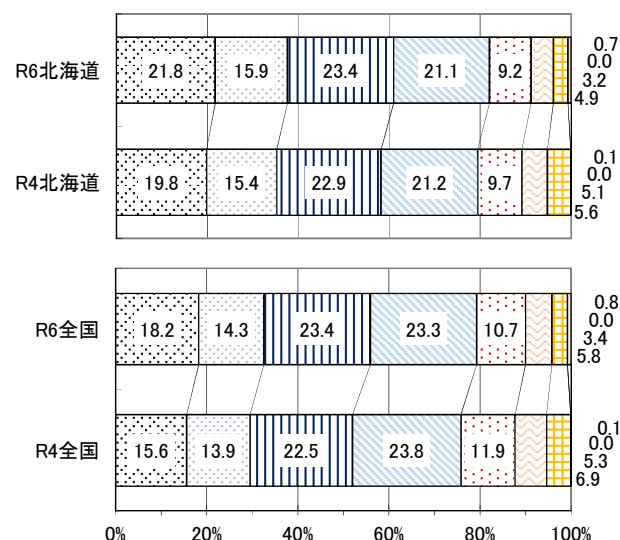
「1. 4時間以上」、「2. 3時間以上、4時間より少ない」、「3. 2時間以上、3時間より少ない」又は「4. 1時間以上、2時間より少ない」と回答している児童生徒の割合は、令和4年度と比べて、小学校で0.3ポイント低く、中学校で2.9ポイント高い。全国と比べて小学校で5.1ポイント高く、中学校で3.0ポイント高い。

□1. 4時間以上	□2. 3時間以上、4時間より少ない	■3. 2時間以上、3時間より少ない
□4. 1時間以上、2時間より少ない	□5. 30分以上、1時間より少ない	□6. 30分より少ない
■7. 携帯電話・スマートフォンを持っていない	■その他	□無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



【学校】

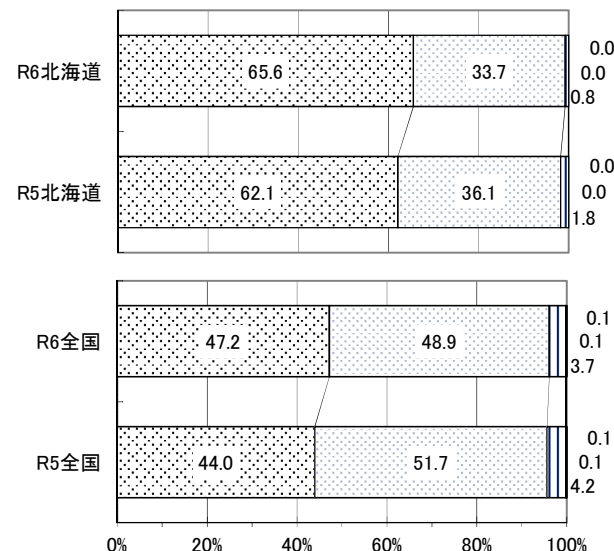
⑭「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」

(学校 質問番号 小71、中75)

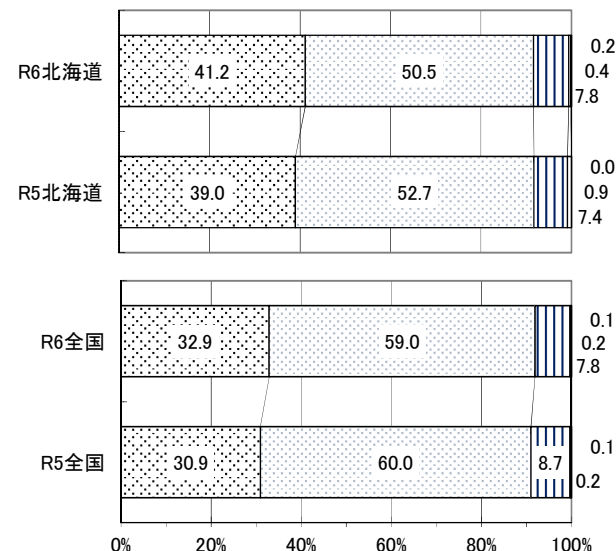
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で3.5ポイント高く、中学校で2.2ポイント高い。全国と比べて小学校で18.4ポイント高く、中学校で8.3ポイント高い。

□1. よく行った	□2. どちらかといえば、行った	■3. あまり行かなかった	□4. 全く行かなかった	□その他、無回答
-----------	------------------	---------------	--------------	----------

〈小学校〉



〈中学校〉



■望ましい学習習慣の確立

【学校】

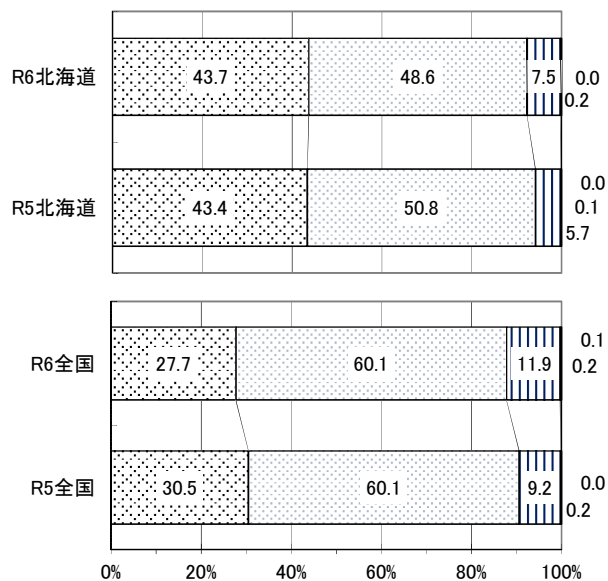
⑮「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか」

(学校 質問番号 小73、中77)

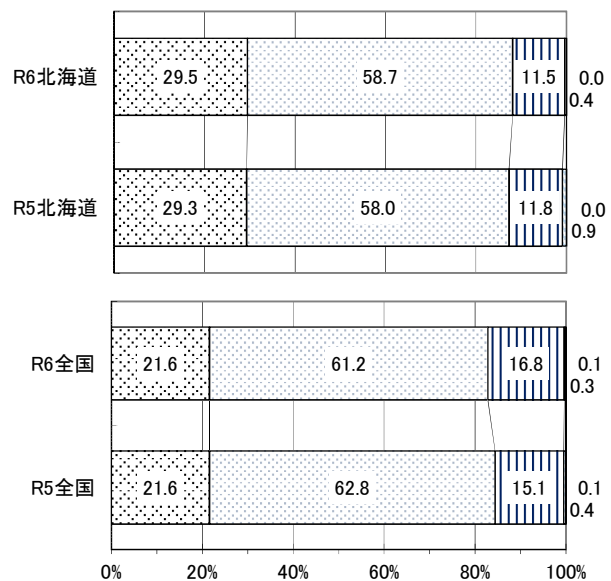
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で0.3ポイント高く、中学校で0.2ポイント高い。全国と比べて小学校で16.0ポイント高く、中学校で7.9ポイント高い。

□1. よく行った	□2. どちらかといえば、行った	□3. あまり行わなかった	□4. 全く行わなかった	□その他、無回答
-----------	------------------	---------------	--------------	----------

〈小学校〉



〈中学校〉



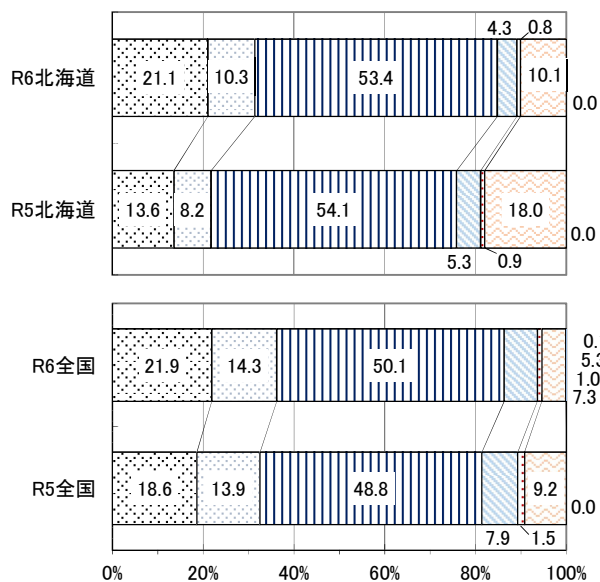
⑯「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」

(学校 質問番号 小64、中68)

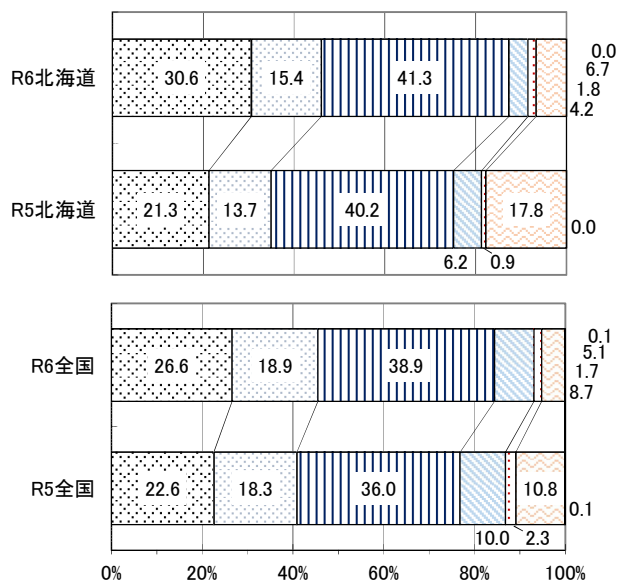
「1. 毎日持ち帰って、毎日利用させている」又は「2. 毎日持ち帰って、時々利用させている」と回答している学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校で9.6ポイント高く、中学校で11.0ポイント高い。全国と比べて小学校で4.8ポイント低く、中学校で0.5ポイント高い。

□1. 毎日持ち帰って、毎日利用させている	□2. 毎日持ち帰って、時々利用させている	□3. 時々持ち帰って、時々利用させている
□4. 持ち帰らせていない	□5. 持ち帰ってはいけないこととしている	□6. 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている
□その他、無回答		

〈小学校〉



〈中学校〉



5. 子どもの自己有用感・学習意欲等の状況

子どもの自己有用感・学習意欲等の状況について、児童生徒質問調査の結果及びそのグラフを掲載します。

質 問 項 目	校 種	北海道の結果		全国比	
		R6	R5	R6	R5
① 自分には、よいところがあると回答した児童生徒の割合（小9、中9）	小	40.7%	39.2%	-2.7	-3.4
	中	41.5%	37.7%	+1.1	+0.5
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した児童生徒の割合（小10、中10）	小	47.0%	48.1%	-1.8	-1.8
	中	46.2%	40.7%	+2.0	+0.7
③ 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合（小11、中11）	小	59.8%	59.8%	-0.8	-1.0
	中	36.5%	40.1%	+0.4	+0.7
④ 学校に行くのは楽しいと回答した児童生徒の割合（小16、中16）	小	42.9%	45.5%	-4.3	-4.3
	中	40.5%	38.5%	-3.0	-4.8
⑤ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童生徒の割合（小17、中17）	小	28.8%	31.5%	-1.5	-0.5
	中	29.1%	31.2%	-1.2	-1.0
⑥ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくあると回答した児童生徒の割合（小19、中19）	小	49.5%	49.1%	-1.3	-0.8
	中	44.1%	40.3%	-0.5	-0.6
⑦ 国語の勉強は好きだと回答した児童生徒の割合（小42、中42）	小	24.6%	24.1%	+0.5	+0.3
	中	28.3%	25.9%	+3.9	+2.3
⑧ 国語の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合（小44、中44）	小	37.3%	39.3%	-1.9	-1.1
	中	36.1%	32.1%	+4.1	+1.7
⑨ 算数・数学の勉強は好きだと回答した児童生徒の割合（小50、中50）	小	31.7%	32.7%	-2.3	-2.1
	中	26.5%	28.1%	-2.9	-1.0
⑩ 算数・数学の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合（小52、中52）	小	40.0%	41.3%	-4.9	-3.9
	中	33.4%	32.7%	-1.7	-1.2

※(校種 番号)は質問番号

※北海道の結果は最も肯定的に回答した割合。

■子どもの自己有用感・学習意欲等

【児童生徒】

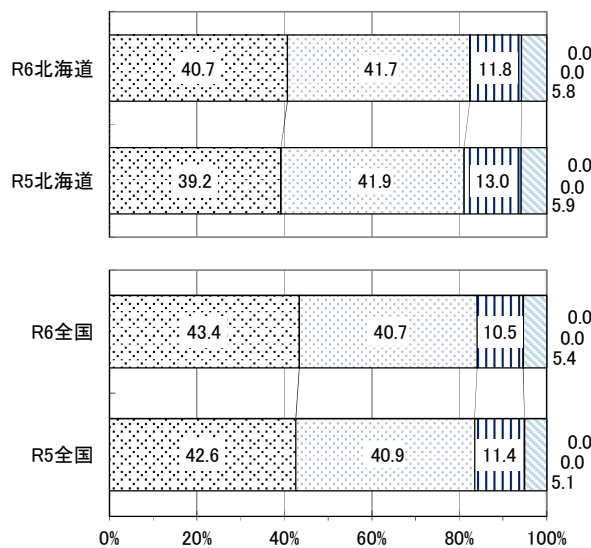
①「自分には、よいところがあると思いますか」

(児童生徒 質問番号 小9、中9)

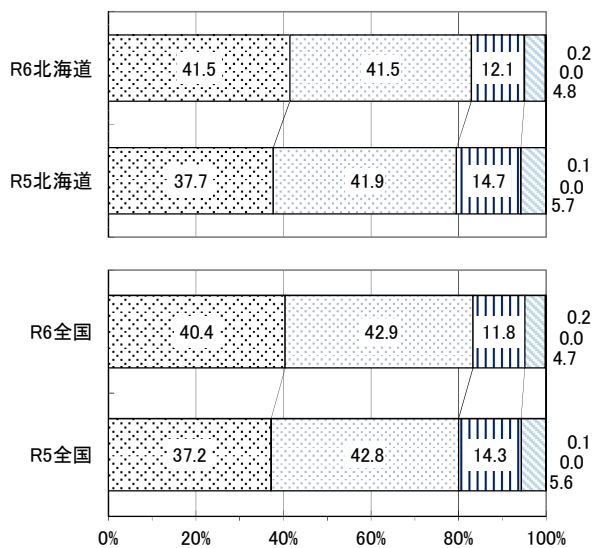
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で1.5ポイント高く、中学校で3.8ポイント高い。全国と比べて小学校で2.7ポイント低く、中学校で1.1ポイント高い。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



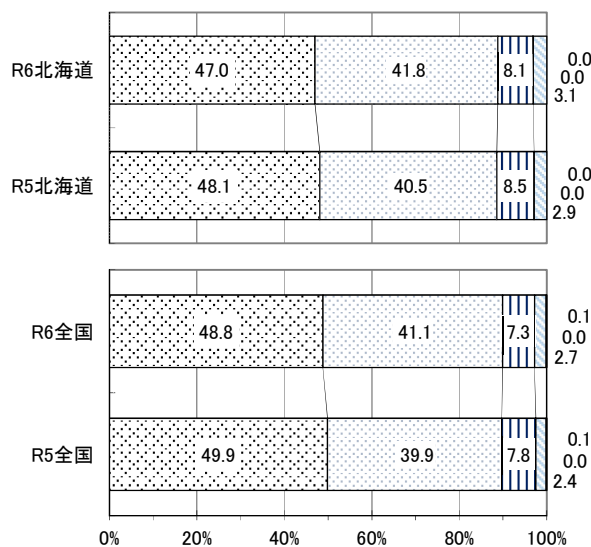
②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

(児童生徒 質問番号 小10、中10)

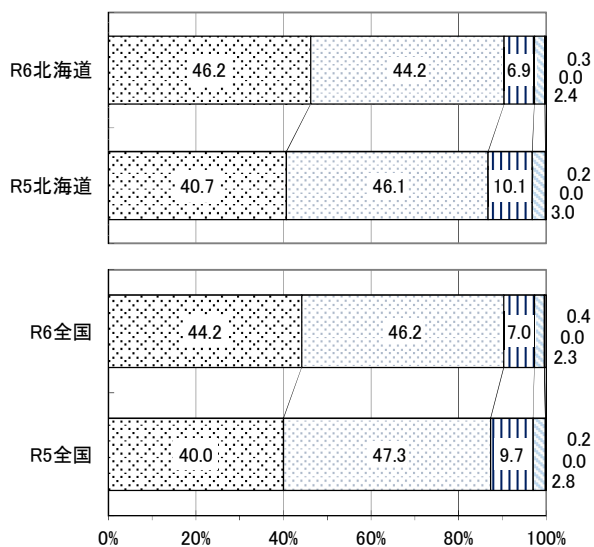
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で1.1ポイント低く、中学校で5.5ポイント高い。全国と比べて小学校で1.8ポイント低く、中学校で2.0ポイント高い。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



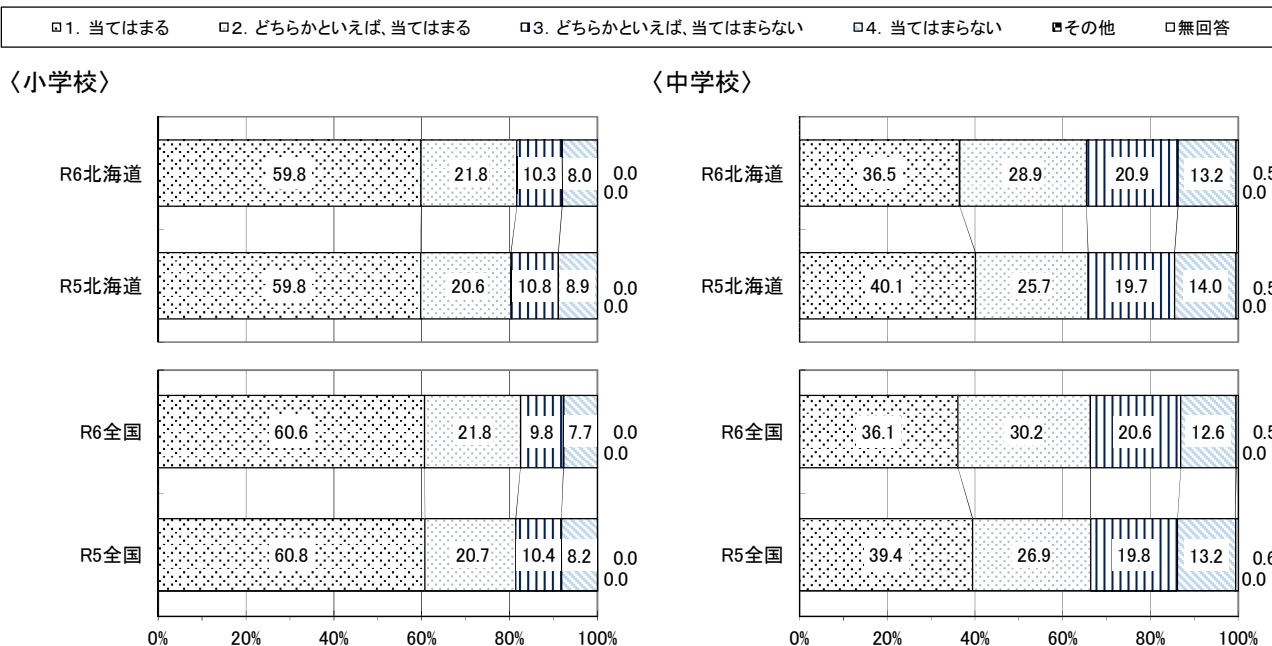
■子どもの自己有用感・学習意欲等

【児童生徒】

③「将来の夢や目標を持っていますか」

(児童生徒 質問番号 小11、中11)

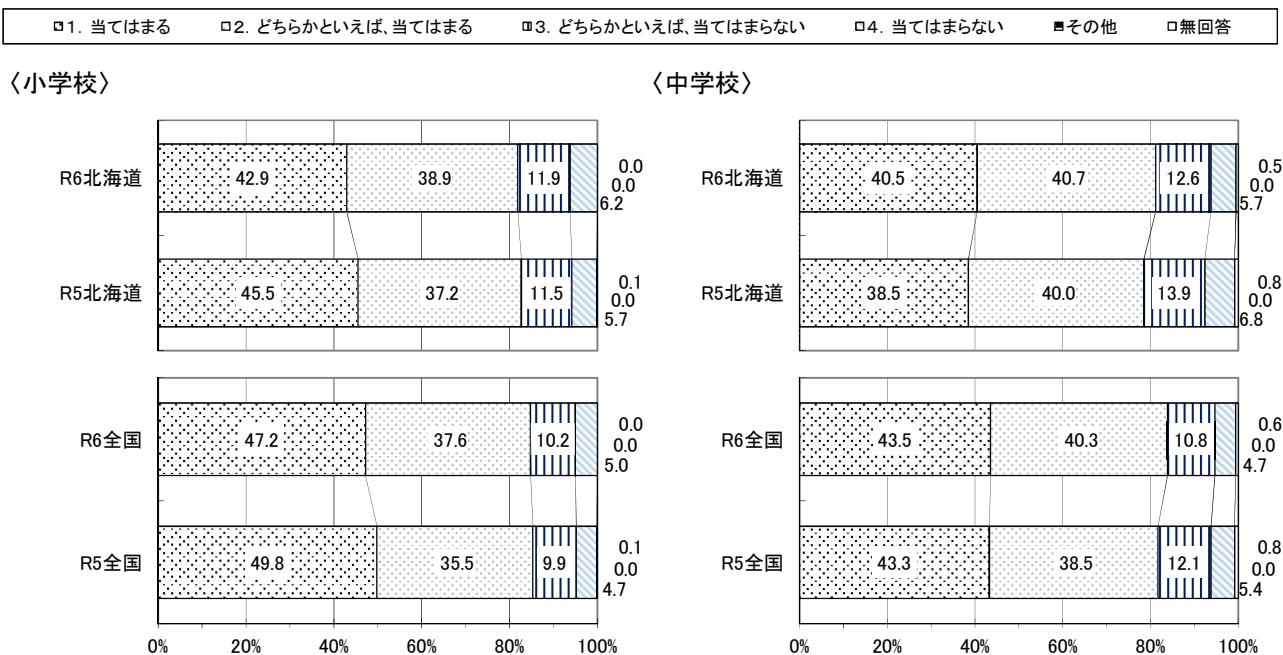
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で同じ、中学校で3.6ポイント低い。全国と比べて小学校で0.8ポイント低く、中学校で0.4ポイント高い。



④「学校に行くのは楽しいと思いますか」

(児童生徒 質問番号 小16、中16)

「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で2.6ポイント低く、中学校で2.0ポイント高い。全国と比べて小学校で4.3ポイント低く、中学校で3.0ポイント低い。



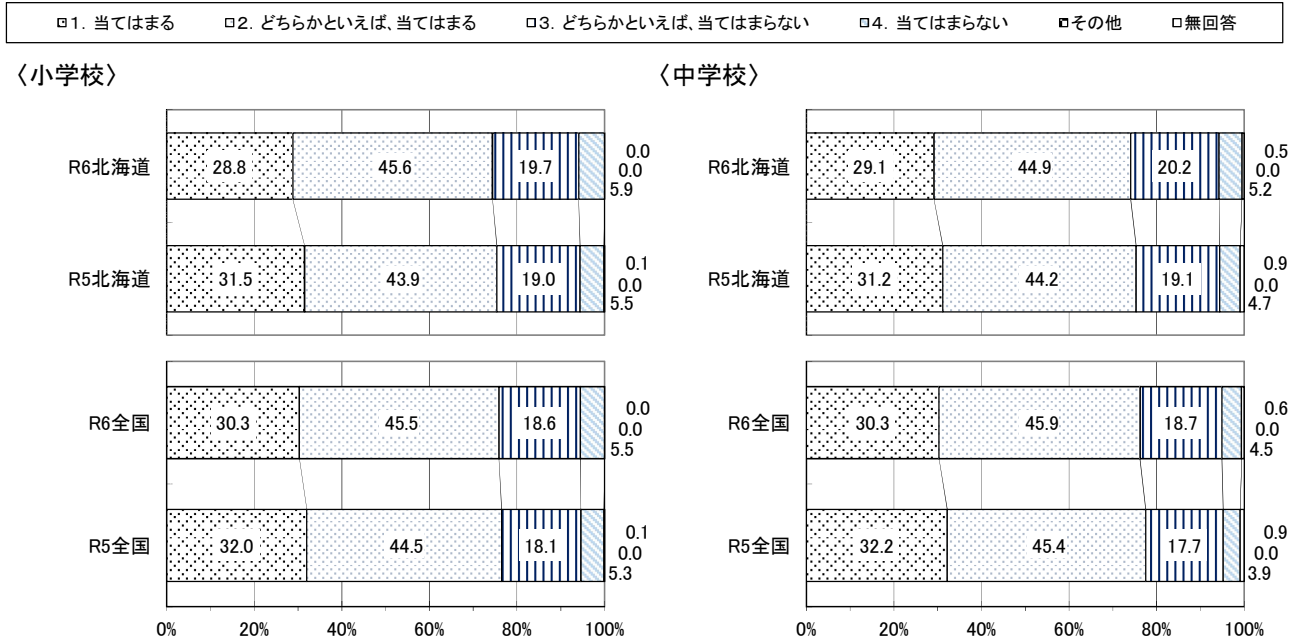
■子どもの自己有用感・学習意欲等

【児童生徒】

⑤「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

(児童生徒 質問番号 小17、中17)

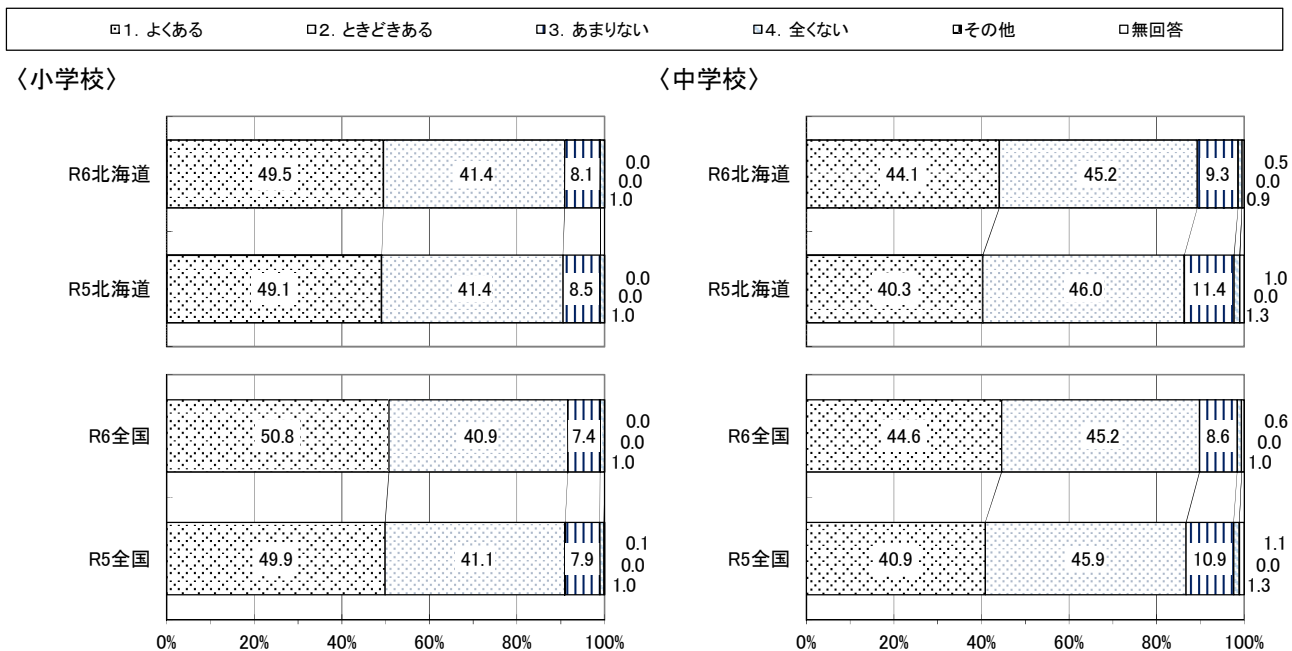
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で2.7ポイント低く、中学校で2.1ポイント低い。全国と比べて小学校で1.5ポイント低く、中学校で1.2ポイント低い。



⑥「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」

(児童生徒 質問番号 小19、中19)

「1. よくある」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で0.4ポイント高く、中学校で3.8ポイント高い。全国と比べて小学校で1.3ポイント低く、中学校で0.5ポイント低い。



■子どもの自己有用感・学習意欲等

【児童生徒】

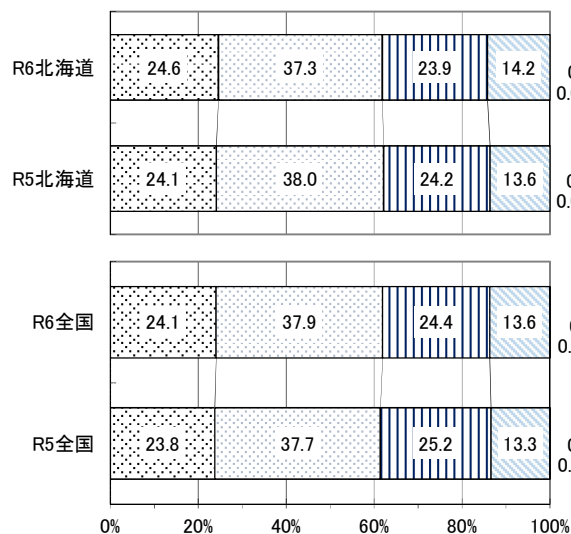
⑦「国語の勉強は好きですか」

(児童生徒 質問番号 小42、中42)

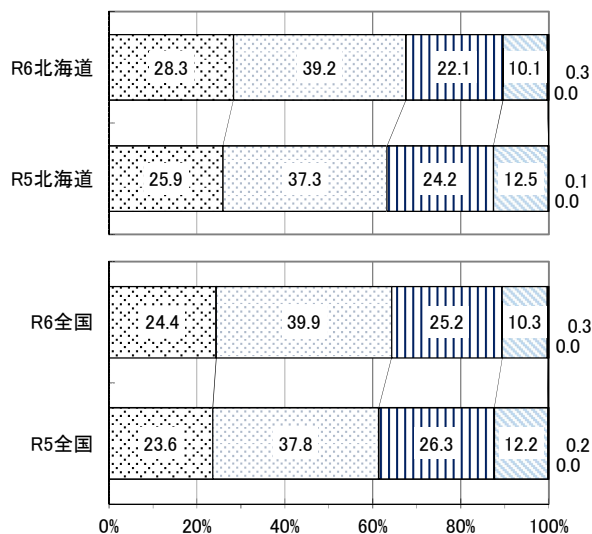
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で2.4ポイント高い。全国と比べて小学校で0.5ポイント高く、中学校で3.9ポイント高い。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



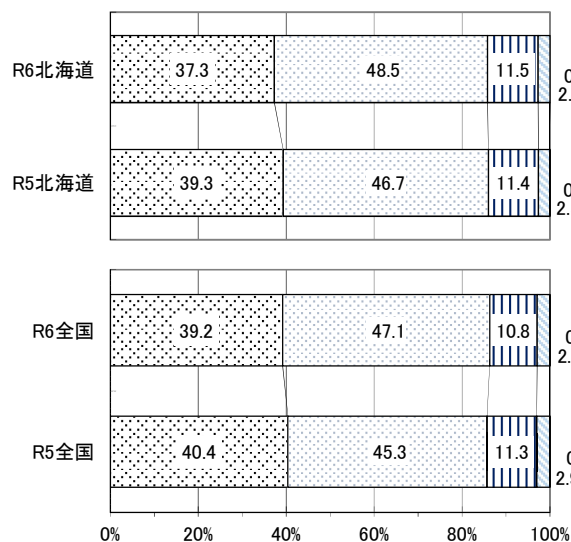
⑧「国語の授業の内容はよく分かりますか」

(児童生徒 質問番号 小44、中44)

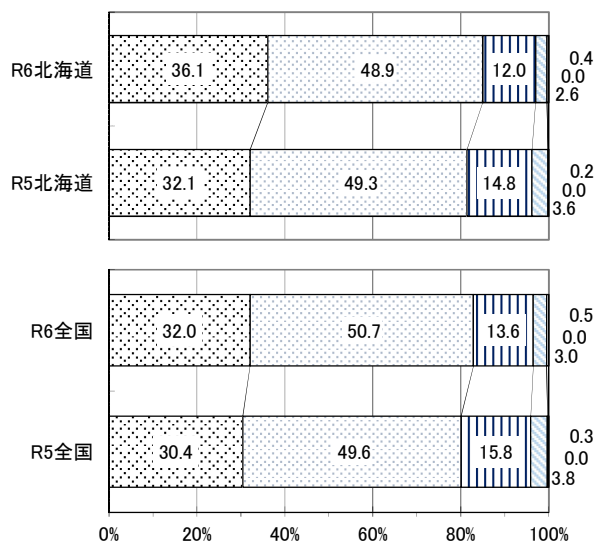
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で2.0ポイント低く、中学校で4.0ポイント高い。全国と比べて小学校で1.9ポイント低く、中学校で4.1ポイント高い。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



■子どもの自己有用感・学習意欲等

【児童生徒】

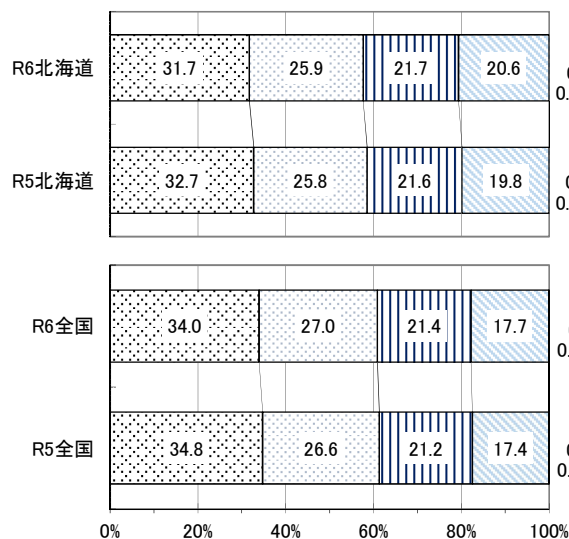
⑨「算数・数学の勉強は好きですか」

(児童生徒 質問番号 小50、中50)

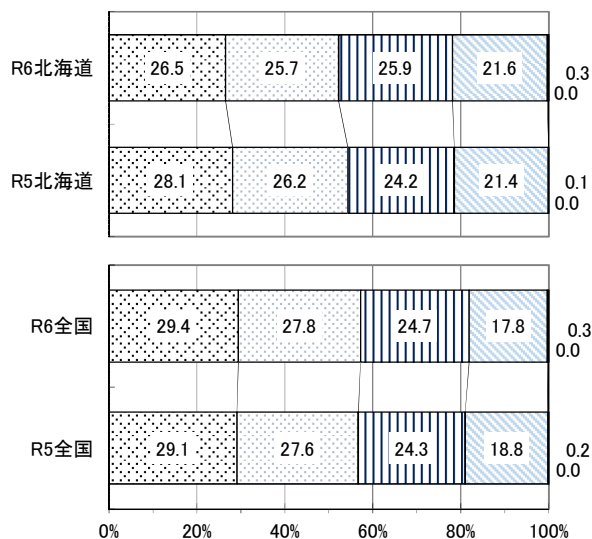
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で1.0ポイント低く、中学校で1.6ポイント低い。全国と比べて小学校で2.3ポイント低く、中学校で2.9ポイント低い。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



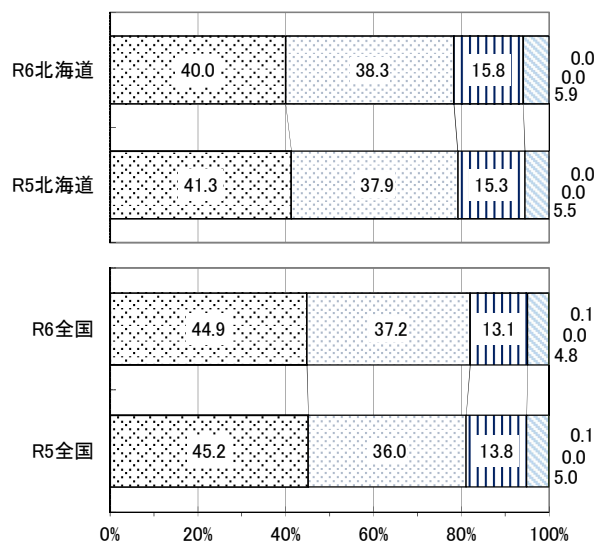
⑩「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」

(児童生徒 質問番号 小52、中52)

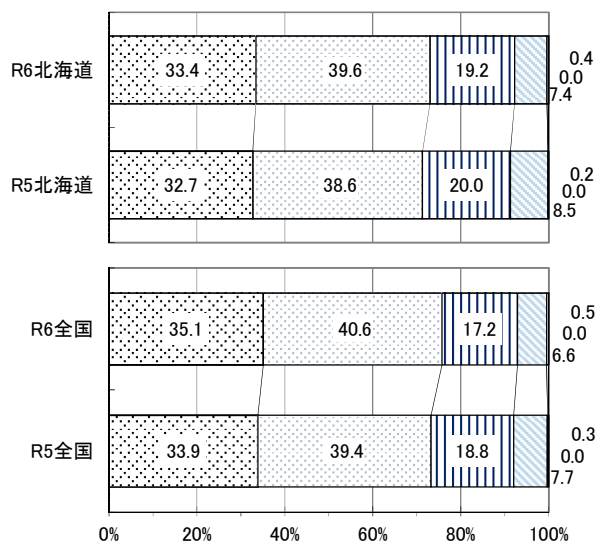
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で1.3ポイント低く、中学校で0.7ポイント高い。全国と比べて小学校で4.9ポイント低く、中学校で1.7ポイント低い。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



【参考】札幌市を除く北海道の調査結果

国は指定都市を除く都道府県の調査結果も公表していることから、「札幌市を除く北海道の調査結果」の概要を掲載します。

1. 調査の概要

	対象学校数(校)	実施学校数(校) (実施率)	児童生徒数(人)
小 学 校	738	735 (99.6%)	21,043
中 学 校	472	467 (98.9%)	20,872
合 計	1,210	1,202 (99.3%)	41,915

※ 実施学校数は、4月18日に調査を実施した数。

※ 児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

【各教科の平均正答率及び平均正答数】

			小学校		中学校	
			国語	算数	国語	数学
平 均 正 答 率 (%)	R6	道 (札幌市を除く)	67 [66.5]	59 [59.3]	56 [56.1]	49 [49.4]
		国	68 [67.7]	63 [63.4]	58 [58.1]	53 [52.5]
	R5	道 (札幌市を除く)	66 [65.7]	60 [59.6]	68 [68.3]	48 [47.7]
		国	67 [67.2]	63 [62.5]	70 [69.8]	51 [51.0]
平 均 正 答 数 (問)	R6	道 (札幌市を除く)	9.3/14	9.5/16	8.4/15	7.9/16
		国	9.5/14	10.1/16	8.7/15	8.4/16
	R5	道 (札幌市を除く)	9.2/14	9.5/16	10.2/15	7.2/15
		国	9.4/14	10.0/16	10.5/15	7.6/15

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値 [道教委が独自に算出した小数値]

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値 [国が公表した小数値]